

eコマース・マーケティング

担当教員 河田 賢一

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

インターネットの普及に伴い、eコマース（電子商取引）が発展してきている。当講義では電子商取引が企業活動や消費者行動に与える影響について学んでいく。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	電子商取引とは
3	企業対消費者電子商取引の概要①
4	企業対消費者電子商取引の概要②
5	企業対消費者電子商取引の概要③
6	契約の流れ①
7	契約の流れ②
8	契約の流れ①
9	資金と物の流れ①
10	資金と物の流れ②
11	資金と物の流れ③
12	情報の流れ①
13	情報の流れ②
14	情報の流れ③
15	講義のまとめ
16	期末試験

【履修上の注意事項】

講義開始とともに出席カードを配布します。その時点で教室にいない場合は欠席となります。

講義時間中に限らず、開始前・終了後に教室の机に座った場合には減点となります。トイレに友人と一緒にいく必要はありません。長時間教室に戻ってこない場合には欠席扱いとなります。講義時間中にタバコを吸いに行った場合には、即座に単位『不可』となります。

【評価方法】

期末試験（70%）、出席点ならびに受講態度（30%）

【テキスト】

丸山正博（2011）『電子商取引の進展 ネット通販とeビジネス』八千代出版

【参考文献】

英文簿記・会計

担当教員 清村 英之

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

企業活動・ビジネスに国境がないように、簿記・会計の世界でも徐々に国境がなくなりつつあります。国境がなくなった時、世界標準の貸借対照表や損益計算書は、当然ながら英語で作成されます。

この講義では、「商業簿記Ⅰ」「同Ⅱ」で学んだ簿記一巡の手続を英語で行えるようになることを目標とし、また、国際会計検定BATIC (Bookkeeping and Accounting Test for International Communication) の取得も目指します。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	Guidance (ガイダンス)
2	Basic Concepts of Bookkeeping and Accounting (簿記・会計の基礎概念)
3	Transactions and Journal Entries (取引と仕訳)
4	Transactions and Journal Entries (取引と仕訳)
5	Journals and Ledgers (仕訳帳と元帳)
6	Journals and Ledgers (仕訳帳と元帳)
7	Trial Balance (試算表)
8	Test① (中間テスト)
9	Adjusting Entries (決算整理仕訳)
10	Worksheet (精算表)
11	Financial Statements (財務諸表)
12	Closing Entries (帳簿の締切り)
13	Internal Control (内部統制)
14	Generally Accepted Accounting Principles (一般に公正妥当と認められた会計原則)
15	Financial Statement Analysis (財務諸表分析)
16	Test② (期末テスト)

【履修上の注意事項】

「商業簿記Ⅰ」(または「簿記原理Ⅰ」4単位分)を履修済みの学生しか登録できません。

【評価方法】

出席20%, テスト80%で評価します。

【テキスト】

使用しません。

【参考文献】

東京商工会議所『新版BATIC Subject 1 公式テキスト』中央経済社。
東京商工会議所『新版BATIC Subject 1 問題集』中央経済社。

オフィス・マネジメント

担当教員 佐渡山 美智子

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

自分自身の能力を高めながら、チームとして個を尊重し連携することはビジネスをはじめ事業を成功させるための不可欠な要素です。今の社会で求められる人材として、コミュニケーション能力を高め、セルフマネジメント、パーソナルマネジメント、チームマネジメントの基本を学びます。人と人がつながることではじめて達成できる豊かさを知ることから、それぞれの能力を自ら引き出し、人を活かすための言葉や行動、経営、マネジメントのついての関心を高め、今、そして、これからの時代に求められるビジネスのスタイルを考えます。

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

・出席状況 ・提出物（レポートなど） ・活動状況

【テキスト】

【参考文献】

会計監査

担当教員 翁長 良禎、清村 英之

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

初学者に公認会計士による財務諸表監査とは何かを理解できるように講義をする。近時、企業会計を巡る粉飾やそれを見逃している監査人の責任などが問題にされている。しかし、これらはむしろ例外的事象であって、企業会計の監査は専門家である公認会計士への信頼の上に築かれている社会経済的制度である。そのような監査制度の歴史と監査基準の概略を講述することにより会計監査とは何かを明らかにして行く。

【授業の展開計画】

第1週	監査とは何か。	第 9週	監査の目的及び一般基準
第2週	ディスクロージャーと会計監査	第10週	同上（つづき）
第3週	欧米の監査の歴史	第11週	リスク・アプローチ
第4週	わが国の監査制度	第12週	内部統制と監査
第5週	同上（つづき）	第13週	監査計画
第6週	金融商品取引法監査	第14週	監査の実施
第7週	会社法監査	第15週	監査報告書
第8週	監査基準とは何か	第16週	期末試験

【履修上の注意事項】

毎回出席を取ります。従って3分の2以上出席していない場合は、期末試験が受けられません。このことは厳格に行いますので注意して下さい。その他にも受講生に対して2、3の注文がありますが、登録時にお知らせします。

【評価方法】

期末試験の結果を主とし、出席状況を若干考慮して評価します。

【テキスト】

翁長良禎著『監査論講義』（プリント）

【参考文献】

講義の中で必要に応じ紹介します。

会計学 I

担当教員 大城 建夫

対象学年 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

本講義では、財務会計分野の基礎的、全般的内容を修得させることを目標とする。財務会計は企業の外部利害関係者への報告を中心とした分野であり、企業の内部管理のための管理会計と対比される会計分野である。このような外部報告会計のための基本原理について、企業会計原則・会計基準を中心に会社法会計、金融商品取引法会計との比較を行い、わかりやすく講義と質疑で進めていく。

【授業の展開計画】

1. ガイダンス
2. 会計学の役割と領域
3. 会計公準論
4. 会計原則論
5. 貸借対照表論
6. 資産会計
7. 流動資産
8. 固定資産その1
9. 固定資産その2
10. 繰延資産
11. 流動負債
12. 固定負債
13. 純資産会計その1
14. 純資産会計その2
15. 貸借対照表論のまとめ
16. 期末テスト

【履修上の注意事項】

会計学 I では、会計理論の講義を中心に行うが、会計学の理論を具体的に理解するためにも簿記は基礎になる。そのため、受講生諸君は、日商簿記 2 級等の資格取得にも目標を持ってもらいたい。会計学 I を受講するには、商業簿記 I、II を履修していることが望ましい。

【評価方法】

成績評価の方法は、出席状況、中間テスト、期末試験などを総合して判断する。

【テキスト】

上江洲・大城編著『財務会計の基礎理論と展開』同文館出版

【参考文献】

広瀬義州『財務会計』中央経済社、伊藤邦雄『ゼミナール現代会計入門』日本経済新聞社、桜井久勝『財務会計講義』中央経済社

会計学Ⅱ

担当教員 大城 建夫

対象学年 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

本講義では、財務会計分野の基礎的、全般的内容を修得させることを目標とする。財務会計は企業の外部利害関係者への報告を中心とした分野であり、企業の内部管理のための管理会計と対比される会計分野である。このような外部報告会計のための基本原理について、企業会計原則及び会計基準を中心に会社法会計、金融商品取引法会計との比較を行い、講義と質疑で進めていく。

【授業の展開計画】

1. ガイダンス
2. 損益会計その1（収益、費用の認識と測定）
3. 損益会計その2
4. 財務諸表の作成
4. 貸借対照表の報告原則と様式
5. 損益計算書の報告原則と様式
6. キャッシュ・フロー計算書その1
7. キャッシュ・フロー計算書その2
8. 財務諸表の作成とまとめ
9. 金融商品会計
10. 外貨建取引等会計
11. 外貨建取引等会計
12. 連結会計その1
13. 連結会計その2
14. 国際会計基準
15. わが国の会計基準の動向
16. 期末テスト

【履修上の注意事項】

会計学Ⅱでは、会計理論の講義を中心に行うが、会計学の理論を具体的に理解するためにも簿記は基礎となる。そのため、受講生諸君は、日商簿記2級等の資格取得にも目標を持ってもらいたい。会計学Ⅱを受講するには、商業簿記Ⅰ、Ⅱ、会計学Ⅰを履修していることが望ましい。

【評価方法】

成績評価の方法は、出席状況、中間テスト、期末試験などを総合して判断する。

【テキスト】

上江洲・大城編著『財務会計の基礎理論と展開』同文館出版

【参考文献】

広瀬義州『財務会計』中央経済社、伊藤邦雄『ゼミナール現代会計入門』日本経済新聞社、桜井久勝『財務会計講義』中央経済社

外書講読

担当教員 安座間 喜松

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

経済学や経営学分野における基本的な英語文献の翻訳や発音を通して、外書の読解力の向上と専門用語の英語による表現や考え方を理解する。

【授業の展開計画】

毎講義ごとに、受講生の一部に対しては英文和訳の課題が与えられる。課題が与えられた受講生はその課題の解答を次回の講義で発表する。むろん、その発表の内容は、最終的な成績に加味される。

【履修上の注意事項】

毎講義ごとに、受講生の一部に対しては英文和訳の課題が与えられる。課題が与えられた受講生はその課題の解答を次回の講義で発表する。むろん、その発表の内容は、最終的な成績に加味される。

【評価方法】

】成績は、学期末試験と宿題の成績、及び出席率を加味して、与えられる。試験の形式は、英文和訳とする。ただし、試験中、英和辞書の使用を許可する。

【テキスト】

講義ごとに、インターネットのwebsiteを参考に、適宜与えられる。

【参考文献】

とくになし

企業者史

担当教員 岩橋 建治

対象学年 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

「ひと」としての企業者に注目し、そこから学ぶ。授業ではさまざまな企業者を取りあげる。彼らによる企業者活動（経営戦略、経営管理、人材育成など）は、どのような時代的・社会的環境のもとで行われたのか。それにより彼らはいかにして社会を変えていったのか。さらに、困難におちいった彼らを支え続けてきた経営理念、あるいは夢や信念とは、何だったのか。主に以上の問いかけから学んでいく。

【授業の展開計画】

1. 歴史と視点
2. 企業者と企業者活動
 - ・ 鈴木敏文（セブン-イレブン・ジャパン）
 - ・ 松下幸之助（松下電器産業、現・パナソニック）
 - ・ 小倉昌男（ヤマト運輸）
 - ・ カルロス・ゴーン（日産自動車）
 - ・ 稲盛和夫（京セラ・KDDI）
 - ・ スティーブ・ジョブズ（アップル）
 - ・ 南場智子（DeNA）
 - ・ 安藤百福（日清食品）
 - ・ 本田宗一郎（本田技研工業）
 - ・ 孫正義（ソフトバンク）
3. まとめ

【履修上の注意事項】

「もし自分なら、どのように判断し、行動しただろうか」と思考のシミュレーションをしてみましょう。

【評価方法】

期末試験（80%）、中間レポート（20%）

【テキスト】

なし。

【参考文献】

適宜紹介する。

基礎演習 I

担当教員 清村 英之

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

簿記の技能は、会計コースで様々な専門科目を履修するに当たって不可欠です。したがって、この演習では、第一に日商簿記検定試験2級の資格取得を目指します。また、会計学の全容を明らかにし、それぞれの領域を紹介することによって会计学への興味を喚起する、つまり会计学への誘いが第二の目的です。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	会計学の全体像
3	会計学の全体像
4	日商簿記検定試験6月試験に向けての学習
5	日商簿記検定試験6月試験に向けての学習
6	日商簿記検定試験6月試験に向けての学習
7	日商簿記検定試験6月試験に向けての学習
8	日商簿記検定試験6月試験に向けての学習
9	財務諸表の作り方
10	財務諸表の作り方
11	財務諸表の作り方
12	財務諸表の読み方
13	財務諸表の読み方
14	財務諸表の読み方
15	財務諸表の読み方
16	まとめ

【履修上の注意事項】

会計コースを選択した学生しか登録できません。

【評価方法】

出席，発表，課題などで，総合的に評価します。

【テキスト】

使用しません。

【参考文献】

必要に応じ，講義中に紹介します。

基礎演習 I

担当教員 河田 賢一

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本演習はマーケティング入門において学んだ内容を基礎として流通・マーケティング全般について学びます。また基礎演習 I であるため、その後の基礎演習 II・専門演習・卒業論文演習において求められるレジュメの作成・報告や発表の仕方についても学んでいきます。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	資料の収集方法
3	報告・討論
4	報告・討論
5	報告・討論
6	報告・討論
7	報告・討論
8	報告・討論
9	報告・討論
10	報告・討論
11	報告・討論
12	報告・討論
13	報告・討論
14	報告・討論
15	報告・討論
16	演習のまとめ

【履修上の注意事項】

自らの報告の時に休む、欠席回数が多い等の学生は単位を取得できません。

演習開始時刻とともに出席カードを配布します。その時点で教室にいない場合は欠席となります。

演習時間中に限らず、開始前・終了後に教室の机に座った場合には減点となります。トイレに友人と一緒に行く必要はありません。長時間教室に戻ってこない場合には欠席扱いとなります。演習時間中にタバコを吸いに行った場合には、即座に単位『不可』となります。

【評価方法】

出席点および受講態度（50％）、報告（40％）、質問（10％）

【テキスト】

加藤義忠監修・日本流通学会編（2009）『現代流通事典（第2版）』白桃書房

【参考文献】

基礎演習 I

担当教員 岩橋 建治

対象学年 2年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

【授業のねらい】

経営学は、ひと（人材育成）・もの（商品やサービス）・かね（資金の流れ）・情報などの経営資源を、総合的にどう組み合わせれば、組織としてより効果的な働きをもたらすのかを考える学問です。この授業では、ケーススタディを中心に、経営学に関する予備知識を身につけます。その過程で、大学で学ぶための、さらには実社会の現場での実践に役立つ、さまざまな方法を習得します。具体的には、①テキストの輪読を通じて、問題と課題を見いだすためのトレーニングを行います。②討論を通じて、他者と共同して問題解決にあたるプロセスを学びます。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	はじめに： 班分けなど
2	ゲーム： ビジネスアイデアの探求
3	グループワーク（1）： ビジネスプランの作成
4	グループワーク（2）： 業界研究
5	分からないことは分けること（1）： 任天堂
6	分からないことは分けること（2）： シマノ
7	分からないことは分けること（3）： トヨタ
8	自分の頭で考えて考えて考え抜くこと： セブン-イレブン・ジャパン
9	客観的に眺め不合理な点を見つけられること（1）： キヤノン
10	客観的に眺め不合理な点を見つけられること（2）： 花王
11	危機をもって企業のチャンスに転化すること： マブチモーター
12	身の丈に合った成長を図り、事業リスクを直視すること： 信越化学
13	世のため、人のためという自発性の企業文化を埋め込んでいること（1）： ヤマト運輸
14	世のため、人のためという自発性の企業文化を埋め込んでいること（2）： ホンダ
15	前期のまとめ
16	

【履修上の注意事項】

積極的な発言を求めます。積極的な発言は、みんなの理解を助けるだけでなく、発言者の表現力も高めます。

【評価方法】

出席、演習への貢献度、および課題の完成度などにより総合的に評価します。なお、自分の班が報告班または討論班のときに正当な理由なく欠席した場合は、大きくペナルティーが付きまます。

【テキスト】

新原浩朗（2006）『日本の優秀企業研究 企業経営の原点——6つの条件』日経ビジネス人文庫。

【参考文献】

適宜紹介します。

基礎演習 II

担当教員 清村 英之

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

簿記の技能は、会計コースで様々な専門科目を履修するに当たって不可欠です。したがって、この演習では、第一に日商簿記検定試験2級の資格取得を目指します。また、会計学の全容を明らかにし、それぞれの領域を紹介することによって会计学への興味を喚起する、つまり会计学への誘いが第二の目的です。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	日商簿記検定試験11月試験に向けての学習
3	日商簿記検定試験11月試験に向けての学習
4	日商簿記検定試験11月試験に向けての学習
5	日商簿記検定試験11月試験に向けての学習
6	日商簿記検定試験11月試験に向けての学習
7	貨幣の時間価値
8	貨幣の時間価値
9	貨幣の時間価値
10	キャッシュ・フロー計算書の作成
11	キャッシュ・フロー計算書の作成
12	キャッシュ・フロー計算書の作成
13	会計の国際化
14	会計の国際化
15	会計の国際化
16	まとめ

【履修上の注意事項】

会計コースを選択し、「基礎演習 I」を履修済みの学生しか登録できません。

【評価方法】

出席，発表，課題などで，総合的に評価します。

【テキスト】

使用しません。

【参考文献】

必要に応じ，講義中に紹介します。

基礎演習 II

担当教員 河田 賢一

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

演習の時間自体は前期の基礎演習 I と同様に進行してゆきます。それ以外に各自の研究テーマに基づいて研究を進めてもらいます。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	研究テーマの設定
3	報告・討論
4	報告・討論
5	報告・討論
6	報告・討論
7	報告・討論
8	報告・討論
9	報告・討論
10	報告・討論、レポート中間提出
11	報告・討論
12	報告・討論
13	報告・討論
14	報告・討論
15	報告・討論、レポート最終提出
16	演習のまとめ

【履修上の注意事項】

演習の時間帯以外に、各自の研究テーマに基づいて研究を進めてもらい、最終的にレポートを提出してもらいます。

【評価方法】

出席点および受講態度 (30%)、報告・質問 (30%)、レポート (40%)

【テキスト】

琉球新報社経済部 (2011) 『ものづくりの邦 地場産業力』琉球新報社

【参考文献】

基礎演習Ⅱ

担当教員 岩橋 建治

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

経営学は、ひと・もの・かね・情報などの経営資源を、総合的にどう組み合わせれば、組織としてより効果的な働きをもたらすのかを考える学問です。この授業では、ケーススタディを中心に、経営学に関する予備知識を身につけます。その過程で、大学で学ぶためのさまざまな方法を習得します。具体的には、①資料収集とパワーポイント作成を通じて情報の取捨選択と要約の仕方を理解します。②報告を通じて「自分が伝えたいこと」を簡潔かつ的確に伝えるためのスキルを高めます。③討論を通じて他者と共同して問題解決にあたるプロセスを学びます。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	はじめに： 班分けなど
2	企業を起こす： 大学発ベンチャー
3	環境・戦略・組織： フォード、GM
4	企業の知識体系： シャープ
5	いかに競争するか： マクドナルド、モスバーガー
6	事業のリストラクチャリングと組織改革： GE
7	M&Aと外部資源の利用： ソニー
8	いかに国際化するか： ノキア
9	日本的生産システム： トヨタ
10	組織の革新と再生： 松下電器産業（現・パナソニック）
11	日本的経営と人事管理制度： ブラザー工業
12	消費者の変化に対応する事業システム： セブン-イレブン・ジャパン
13	ニーズの絞り込みによる市場創造： ライオン
14	ビジネスの倫理： 三菱ふそう
15	後期のまとめ
16	

【履修上の注意事項】

積極的な発言を求めます。各班のパワーポイント報告では、ビジュアルに関する効果的手法や、聴き手に関心をもたせる話し方など、プレゼンテーションのスキルについても適宜指導していきます。

【評価方法】

出席、演習への貢献度、および課題の完成度などにより総合的に評価します。なお、自分の班が報告班または討論班のときに正当な理由なく欠席した場合は、大きくペナルティーがつきます。

【テキスト】

東北大学経営学グループ（2008）『ケースに学ぶ経営学 [新版]』有斐閣ブックス。

【参考文献】

適宜紹介します。

業績管理会計

担当教員 木村 眞実

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本授業は、これまで原価計算・工業簿記を学んできた方を対象として、これまでの知識を企業実務とリンクさせることを目的としています。原価計算・工業簿記で学習した時に「公式法変動予算では、なぜ、操業度差異と予算差異を計算するの?」と思いませんでしたか?本授業では、その意味を、実務から考えていきます。

【授業の展開計画】

業績管理会計と戦略管理会計を通じて、経営管理に有用な会計情報の提供を目的とする会計(管理会計)を学習します。テキストを中心として授業を進めたいと思います。テキストは、見た目が分厚いため難解に思われるかもしれませんが、内容は会話形式で進んでいきますので、ご安心ください。毎回の授業では、「講義メモ」と題して、授業で理解したこと・興味深かったことを、簡単に「講義メモ」へ記入して頂きます。この「講義メモ」を時々提出して頂き、受講生の関心を把握したいと思います。

週	授 業 の 内 容
1	第1章 一般に公正妥当と認められた“粉飾”決算
2	第2章 量産効果を叫ぶのは、場当たり経営の代名詞
3	第3章 世にも不思議な固定分解の世界
4	第4章 固定費よ、あなたはなぜ、固定費なのか
5	第5章 操業度差異がとにかく大事なんだ
6	第6章 売価還元方式に振り回される
7	第7章 上場企業のコスト計算もこの程度
8	第8章 だったらCVPから始めよう
9	第9章 近くて遠き仲～変動利益と営業利益～
10	第10章 CVP分析から生まれる指標
11	第11章 もっと大きな視点からのCVP
12	第12章 直接原価の謎を解く
13	第13章 操業度差異を超える時間の概念
14	第14章 キャッシュフロー分岐点を探せ
15	これまでの復習
16	

【履修上の注意事項】

基礎知識：原価計算Ⅰ・Ⅱまたは工業簿記Ⅰ・Ⅱの履修者、または日商簿記検定試験2級レベルの知識が必要です。たとえば、「個別原価計算における製造間接費の予定配賦」が分かりますか?講義計画：受講生の理解度を見ながら、講義の内容を立てていきますので、多少、授業計画から変更する可能性があることをご了承ください。持ち物：テキスト(無いと授業が楽しくありません)、電卓(12桁以上)。※本授業の履修を決めた方は、第1回の授業に間に合うように、テキストを早く入手して下さい。

【評価方法】

講義中の議論への参加姿勢50%、定期試験50%

【テキスト】

高田直芳『決定版 ほんとうにわかる管理会計&戦略会計』PHPエディターズグループ、3,780円

【参考文献】

- ・谷武幸『エッセンシャル管理会計 第2版』中央経済社、2,940円
- ・滝澤ななみ『簿記の教科書日商2級 工業簿記』TAC出版、945円

グローバル・マーケティング演習

担当教員 一董 宜嫻

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

「グローバル マーケティング総論」と演習のセットで履修することより、履修生の海外ビジネスセンスを磨き上げることを目的とします。授業は最初、講義を通じてグローバル マーケティングの基本概念について確認した後、学生の皆さんに県内外企業の事例について報告してもらう予定です。個人またはグループ発表も可能です。

【授業の展開計画】

1. クラスの予定の説明
2. 講義・討論 (Apple社の事例1)
3. 講義・討論 (Apple社の事例2)
4. 講義・討論 (Starbucksの事例1)
5. 講義・討論 (Starbucksの事例2)
6. 報告・討論 (県企業の事例)
7. 報告・討論 (県企業の事例)
8. 報告・討論 (県企業の事例)
9. 報告・討論 (県企業の事例)
10. 報告・討論 (県企業の事例)
11. 報告・討論 (県企業の事例)
12. 報告・討論 (アジア型マーケティング)
13. 報告・討論 (ヨーロッパ型マーケティング)
14. 報告・討論 (アメリカ型マーケティング)
15. レポート提出
16. まとめ

【履修上の注意事項】

- ①個人発表もしくはグループ発表をする。
- ②レポートを必ず提出する。

【評価方法】

課題一回、発表一回、出席及び受講態度などで総合的に評価する。

【テキスト】

- ①丸谷雄一郎(2006)『グローバル マーケティング』創成社。

【参考文献】

- ①塩見治人・橘川武郎(2008)『日米企業のグローバル競争戦略』名古屋大学出版会。
- ②博報堂アジア生活者研究所プロジェクト(2002)『アジア・マーケティングをここからはじめよう』PHP研究所

グローバル・マーケティング総論

担当教員 一董 宜嫻

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

「グローバル・マーケティング総論」は国際経済、国際経営の関連科目です。ここでは海外ビジネス能力を実践的に養います。国際的なマーケティング活動を、多様な面から捉え、履修生の国際感覚を磨きます。国際交流に興味のある学生は大歓迎です。

【授業の展開計画】

- 1) グローバル マーケティング戦略の枠組み
- 2) 地域マーケティングとグローバル・マーケティング
- 3) 理論の説明(国際製品ライフサイクルモデル)
- 4) 理論の説明(業界の構造分析)
- 5) グローバル消費者とSTP分析
- 6) 外部環境分析(BOP、新興市場)
- 7) グローバル・マーケティング戦略1 (マーケット参入と拡大戦略)
- 8) グローバル・マーケティング戦略2 (国際提携戦略)
- 9) グローバル・マーケティング戦略3 (ブランド戦略)
- 10) グローバル・マーケティング・プランの設定1 (グローバル製品・グローバル価格)
- 11) グローバル・マーケティング・プランの設定2 (流通・広告・販売管理・PRなど)
- 12) 花王と資生堂のケース(日本型マーケティング)
- 13) P&Gの事例(アメリカ型マーケティング)
- 14) グローバル マーケティング の実践学習
- 15) 練習問題解答
- 16) まとめ

【履修上の注意事項】

- (1) 本科目は「グローバル・マーケティング演習」と連続したプログラムを組んでいる。総論で理論の学習→演習で実習プロジェクトを行うので、グローバル・マーケティング演習とセットで登録することが望ましい。
- (2) プリント学習に取り組むことが必要である。

【評価方法】

期末課題、出席および受講態度などで総合的に評価する。

【テキスト】

- ① 小田部正明・Hクリスチアン (2001) 『グローバルビジネス戦略』 横井義則監訳、同文館。
 - ② 丸谷雄一郎(2006) 『グローバル・マーケティング』 創成社。
- なおテキスト購入は必須ではありません。適宜、プリントを配布する予定です。

【参考文献】

- ① 沼上幹(2002) 『分かりやすいマーケティング戦略』 有斐閣。

経営管理論 I

担当教員 天野 敦央

対象学年 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

年間テーマを「経営計画と経営統制」とする。本講座は、通年科目（全年科目）合計4.00単位に相当する。経営管理は①生産管理、②労務管理、③販売管理、④財務管理、および⑤経営組織の、各部に分かち把握せられる。前期は、このなかでも、①生産管理と、⑤経営組織の部分に、おおくの時間をさいて論じていく。後期は、経営戦略の諸側面を研究していきたい。経営戦略の諸側面とは主として①生存領域の規定、②資源展開の戦略、③競争の戦略、および、④組織間関係の戦略といった、4つの側面である。

【授業の展開計画】

なお、本講座においては、ビデオやチャートなどの教材を多用するなどして学生諸君が興味をもって研究にとりくめるような運用をめざしていきたい。

週	授 業 の 内 容
1	講義のすすめ方、評価のしかた
2	経営概念
3	企業概念
4	経営職能
5	テーラー＝システム
6	フォード＝システム
7	オートメーション
8	労働科学
9	人間関係論
10	行動科学
11	テーラー式組織
12	伝統的組織論
13	自生組織と成分組織
14	近代的組織論
15	近代的組織の形態
16	

【履修上の注意事項】

開講時期に指示する。開講日（4月・10月）には必ず出席し、登録手続きを行なってください。本科目は面談による選抜（抽選）登録科目です。登録手続きが不備だと登録・採点・評価されないことがあります。

【評価方法】

期末試験の評点に、平常点を加味し、最終的な評価を決定する。

【テキスト】

未定

【参考文献】

小松『経営学』サイエンス社／占部都美『新訂経営管理論』白桃書房／藻利重隆『経営管理総論』千倉書房。

経営管理論Ⅱ

担当教員 天野 敦央

対象学年 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

年間テーマを「経営計画と経営統制」とする。本講座は、通年科目（全年科目）合計4.00単位に相当する。経営管理は①生産管理、②労務管理、③販売管理、④財務管理、および⑤経営組織の、各部に分かち把握せられる。前期は、このなかでも、①生産管理と、⑤経営組織の部分に、おおくの時間をさいて論じていく。後期は、経営戦略の諸側面を研究していきたい。経営戦略の諸側面とは主として①生存領域の規定、②資源展開の戦略、③競争の戦略、および、④組織間関係の戦略といった、4つの側面である。

【授業の展開計画】

なお、本講座においては、ビデオやチャートなどの教材を多用するなどして学生諸君が興味をもって研究にとりくめるような運用をめざしていきたい。

週	授 業 の 内 容
1	経営戦略概論
2	戦略的組織
3	企業成長
4	生存領域の規定（1）
5	生存領域の規定（2）
6	生存領域の規定（3）
7	資源展開の戦略（1）
8	資源展開の戦略（2）
9	競争の戦略（1）
10	競争の戦略（2）
11	競争の戦略（3）
12	組織間関係の戦略（1）
13	組織間関係の戦略（2）
14	教材学習
15	まとめ
16	

【履修上の注意事項】

開講時期に指示する。開講日（4月・10月）には必ず出席し、登録手続きを行なってください。本科目は面談による選抜（制限）登録科目です。登録手続きが不備だと登録・採点・評価されないことがあります。

【評価方法】

期末試験の評点に、出席点を加味し、最終的な評価を決定する。

【テキスト】

未定

【参考文献】

小川英次ほか（編）『経営学の基礎知識』有斐閣／伊丹敬之ほか『ゼミナール経営学入門』日本経済新聞社／芝川林也（編）『経営学演習』同文館

経営学総論 I

担当教員 佐久本 朝一

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

経済社会における企業の役割と経営管理に関する一般理論の把握を目指します。

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

教科書の内容を自己の表現で要約するレポート形式による評価

【テキスト】

佐久本著「技術革新下の日本型企业社会」ユージン伝

【参考文献】

経営学総論 I

担当教員 天野 敦央

対象学年 1年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

企業は、これまで生成、発展の過程をたどり、今日では社会に多大な影響を及ぼしている。経営学は、そうした企業の営み（経営活動）について学ぶ学問である。企業の経営活動は、生産、販売（マーケティング）、財務、人事、組織など多面にわたって、展開されている。経営学は、そうした企業の各々の活動について学ぶ各論（例えば、生産管理論、販売管理論、財務管理論、人事管理論）によって構成されている。経営学総論は、これらの各論を学ぶ前に、入門的概括的な知識を得るために用意されたカリキュラムである。

【授業の展開計画】

- | 回 | 内容 |
|----|---------------|
| 1 | 経営学という学問 |
| 2 | イギリスにおける企業の発展 |
| 3 | アメリカにおける企業の発展 |
| 4 | 日本における企業の発展 |
| 5 | 科学的管理法 |
| 6 | フォードシステム |
| 7 | 人間関係論 |
| 8 | 意思決定論 |
| 9 | 動機付け理論 |
| 10 | 欲求 5 段階説 |
| 11 | 単位組織と複合組織 |
| 12 | 経営組織の基本形態 |
| 13 | 経営組織の階層と機能 |
| 14 | 経営組織の応用形態 |
| 15 | 試験 |

【履修上の注意事項】

私語は厳につつしんでもらう。

【評価方法】

テストおよびレポートにより総合的に評価する。

【テキスト】

適宜紹介する。

【参考文献】

佐久間『経営学概論』創成社

経営学総論Ⅱ

担当教員 佐久本 朝一

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

経営学に関する一般理論の把握と国際経営の取り組みについて

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

佐久本著「技術革新下の日本型企业社会」ユージン伝

【参考文献】

経営学総論Ⅱ

担当教員 天野 敦央

対象学年 1年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

企業は、これまで生成、発展の過程をたどり、今日では社会に多大な影響を及ぼしている。経営学は、そうした企業の営み（経営活動）について学ぶ学問である。企業の経営活動は、生産、販売（マーケティング）、財務、人事、組織など多面にわたって、展開されている。経営学は、そうした企業の各々の活動について学ぶ各論（例えば、生産管理論、販売管理論、財務管理論、人事管理論）によって構成されている。経営学総論は、これらの各論を学ぶ前に、入門的概括的な知識を得るために用意されたカリキュラムである。

【授業の展開計画】

- | 回 | 内容 |
|----|-------------------|
| 1 | 環境の変化と経営戦略 |
| 2 | 多角化戦略 |
| 3 | 競争戦略 |
| 4 | グローバル戦略 |
| 5 | アメリカにおける経営者の形成 |
| 6 | 日本における経営者の形成 |
| 7 | 所有と経営の分離 |
| 8 | 経営者の職能 |
| 9 | コーポレート・ガバナンス理論 |
| 10 | アメリカのコーポレート・ガバナンス |
| 11 | 日本のコーポレート・ガバナンス |
| 12 | アメリカの経営理念 |
| 13 | 日本の経営理念 |
| 14 | 日本の経営課題 |
| 15 | まとめ |

【履修上の注意事項】

私語は厳につつしんでもらう。

【評価方法】

テストおよびレポートにより総合的に評価する。

【テキスト】

適宜紹介する。

【参考文献】

適宜紹介する。

経営学特別講義

担当教員 吉田 洋

対象学年 2年

単位区分 選択

準備事項

備考 夏期集中講義（世話役：天野敦央）

開講時期 その他

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

講義テーマを「情報経営論」とする。本年度の特別講義では、情報システム経営の中でも、とくに情報システムの監査（IT監査・システム監査）のありかたを重点的に把握していく。システム監査とは被監査部門から独立した立場で、トップマネジメントの視点で、情報システムが経営に貢献しているかどうかを、幅広い側面から総合的に調査し、問題点に改善勧告を行うことをいう。この講義では、監査の一般的な解説からはじめ、システム監査の歴史、システム監査の諸基準、情報システムの内部統制、リスク・アセスメント、ITガバナンスなど基本的なテーマを中心に講義する。あわせて、事例研究を実施し、システム監査の計画と実施方法を具体的に学ぶ。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	情報システムの経営とシステム監査
2	監査の種類と監査人、システム監査の歴史
3	企業改革法、コーポレートガバナンス、システム監査、管理基準
4	企業改革法、コーポレートガバナンス、システム監査、管理基準（2）
5	システム監査関連基準・関連法規
6	内部統制概念、情報システムの内部統制
7	リスク・アセスメント、ITガバナンス、COBITフレームワーク
8	リスク・アセスメント、ITガバナンス、COBITフレームワーク（2）
9	システム監査の実施体制
10	システム監査の導入、計画、実施
11	事例研究1 情報システム運営、アプリケーションシステムとそれらの監査
12	事例研究1 （つづき）
13	事例研究2 情報セキュリティとその監査
14	まとめ講義
15	講評（以上の講義計画は、受講者の要望により変更することもある）
16	予備日（補講は8/12(月)を予定（台風休講など、特別な事情があった場合に限り））

【履修上の注意事項】

遅刻・私語は控えてもらいたい。定期試験は今のところ予定していないが、講義時間中1～3回程度のショートテストの実施を計画している。実施日時などは開講時に指示するので、準備不足、受験忘れ等なきよう注意されたい。集中講義であるので、追試再試などは実施しない。

【評価方法】

概ね次のとおりとする。

出席点が15%、平常点（発言・質問・課題・ショートテストの達成度等）が85%

【テキスト】

堀江正之編著『ITのリスク・統制・監査』同文館出版

【参考文献】

吉田洋著『情報システム監査』税務経理協会

アイテック情報技術教育研究部（著）『2011 システム監査技術者予想問題集』

日本内部監査協会編『ここから始めるIT監査』同文館出版 その他適宜紹介する

経営情報処理 I

担当教員 及川 卓郎

対象学年 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

多くの人に調査結果や分析結果を理解してもらうためには、客観性がありかつわかりやすい説明をしなければなりません。そのために、数値を使って説明することになります。数値を使って説明することで、だれでも同質の判断力を持つことができるようになるわけです。数値としてまとめる方法で、威力を発揮する方法が統計処理です。この授業では、主に表計算ソフトのエクセルを使って基本的な統計処理方法を演習していきます。また、統計分析を通して、経営品質を向上させる方法にも言及していきます。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	授業のガイダンス、ミニテスト、実習方法
2	表計算ソフトエクセルの基本
3	表計算ソフトエクセルの使用法
4	度数分布表の作成とヒストグラムの作成演習
5	正規分布の特性の理解
6	正規分布の利用
7	中間試験
8	中心極限定理に関するシミュレーション実験
9	統計的仮説検定の考え方
10	記述統計量の利用
11	回帰分析に関する演習
12	相関分析に関する演習
13	平均値の差の検定
14	RとRコマンドーを利用した統計分析
15	分散分析の利用方法に関する演習
16	最終試験

【履修上の注意事項】

毎回、情報実習室のパソコンを利用して授業を行いますので、パソコンにログインできるようにID、パスワードなどを用意しておいてください。

【評価方法】

中間試験と最終試験で評価します。出席点も考慮します。

【テキスト】

特になし。授業時間に配布したプリント、資料にそって授業を進めていきます。

【参考文献】

特になし

経営情報処理Ⅱ

担当教員 及川 卓郎

対象学年 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

多くの人に調査結果や分析結果を理解してもらうためには、客観性がありかつわかりやすい説明をしなければなりません。そのために、数値を使って説明することになります。数値を使って説明することで、だれでも同質の判断力を持つことができるようになるわけです。数値としてまとめる方法で、威力を発揮する方法が統計処理です。この授業では、主に表計算ソフトのエクセルを使って基本的な統計処理方法を演習していきます。また、統計分析を通して、経営品質を向上させる方法にも言及していきます。

【授業の展開計画】

1. 授業のガイダンス、ミニテスト、実習方法
2. 表計算ソフトエクセルの基本
3. 表計算ソフトエクセルの使用法
4. 度数分布表の作成とヒストグラムの作成演習
5. 正規分布の特性の理解
6. 正規分布の利用
7. 中間試験
8. 中心極限定理に関するシミュレーション実験
9. 統計的仮説検定の考え方
10. 記述統計量の利用
11. 回帰分析に関する演習
12. 相関分析に関する演習
13. 平均値の差の検定
14. RとRコマンドーを利用した統計分析
15. 分散分析の利用方法に関する演習
16. 最終試験

【履修上の注意事項】

” 毎回、情報実習室のパソコンを利用して授業を行いますので、パソコンにログインできるようにID、パスワードなどを用意しておいてください。”

【評価方法】

中間試験と最終試験で評価します。出席点も考慮します。

【テキスト】

特になし。授業時間に配布したプリント、資料にそって授業を進めていきます。

【参考文献】

特になし

経営数学

担当教員 仲地 健

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

現代の企業経営においては、経営上の意思決定をくらすために、大量な情報の処理が必要とされている。このような情報の処理をおこなうには、統計的および数学的な分析の考え方と方法を学ばなければならない。そのためのひとつの手法が経営数学である。

本講義では、経営学に必要な基礎的な数学を学ぶ。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

【履修上の注意事項】

【評価方法】

試験により評価する。

【テキスト】

【参考文献】

経営戦略論

担当教員 與那原 建

対象学年 3年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

本講義では、経営戦略を「競争優位の獲得・持続をめざして、自社がどんな事業を営むかについて、環境適応的に行う、一連の基本的な意思決定や行動」と捉え、経営戦略に関するこれまでの研究成果をふまえながら、①「経営戦略を決定するには、具体的に何を決めなくてはならないのか」、②「競争優位の獲得と持続に貢献する経営戦略とはどのようなものか」という二つの問題を明らかにしていきたい。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	イントロダクション
2	経営戦略とは何か
3	競争優位と事業活動
4	企業の環境適応
5	企業の競争力と経営資源
6	経営戦略の決定と不確実性
7	オーバーエクステンション
8	企業の成長戦略：相乗効果と相補効果
9	全社レベルの戦略と事業レベルの戦略
10	ドメインの定義
11	経営資源の展開-獲得・蓄積
12	経営資源の展開-配分
13	競争戦略の決定
14	ビジネスシステムの決定
15	前期末試験
16	

【履修上の注意事項】

受講生は当然のことながらキチンと講義に出席しなければならない。たまに講義の様子を見にくるといった受講態度では、単位取得は不可能である。ゆえに、経営戦略というテーマに関心のある学生の受講を歓迎したい。

【評価方法】

テスト、小レポート（講義終了後にその日の講義内容について簡単なコメントを提出してもらうことがある）、受講態度を総合して成績評価を行う。

【テキスト】

テキストは使用せず、必要に応じて講義資料を配布する。

【参考文献】

講義の中で、テーマごとに紹介する。

経営分析

担当教員 清村 英之

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

この講義では、会社が公表する会計データの集め方と、その利用の仕方を解説します。具体的には、実際にインターネット等を通じて入手した実際の会社情報（会計データ）を、様々な分析手法を用いて計算し、それを解釈することによって、会計データの使い方を修得します。

なお、会計データの使い方を学ぶためには、その作り方を知らなければならないので、講義前半では会計データの作り方を解説します。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	経営分析の意義
3	会計情報（会計データ）の集め方
4	貸借対照表の見方
5	損益計算書の見方
6	キャッシュ・フロー計算書の見方
7	会社の全体像をつかむ
8	会社の成長性をつかむ
9	会社の収益力をはかる
10	安全な会社の見分け方
11	会社の社会性を読む
12	会社の資金運用力を見る
13	損益分岐点を計算する
14	会社を総合的に評価する
15	分析をする際の留意点
16	期末テスト

【履修上の注意事項】

- ① 「商業簿記Ⅰ」「同Ⅱ」（または「簿記原理Ⅰ」「同Ⅱ」8単位分）を履修済みの学生しか登録できません。
- ② 初回講義に欠席した場合、登録を取り消すこともあります。

【評価方法】

出席20%，テスト80%で評価します

【テキスト】

使用しません。

【参考文献】

森田松太郎『ビジネスゼミナール経営分析入門・第3版』日本経済新聞社。
田中弘『経営分析：会計データを読む技法』中央経済社。

経営分析演習

担当教員 清村 英之

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

この講義では、「経営分析」で学んだ会計データの集め方・利用の仕方を活かして、実際に経営分析を行います。具体的には、受講生各自が分析対象企業を選択し、インターネット等を通じて会社情報（会計データ）を入力し、様々な分析手法を用いて計算し、それを解釈し、レポートにまとめます。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	分析企業の選択
3	会社情報（会計データ）の収集
4	会社の全体像をつかむ：①平均貸借対照表の作成
5	〃 ②平均損益計算書の作成
6	会社の成長性をつかむ：伸び率の計算
7	会社の収益力をはかる：①資本利益率の計算
8	〃 ②売上高利益率の計算
9	〃 ③資本回転率の計算
10	〃 ④損益分岐点の計算
11	安全な会社の見分け方：①短期的な安全性の分析
12	〃 ②長期的な安全性の分析
13	会社の社会性を読む：付加価値の計算
14	会社の資金運用力を見る
15	会社を総合的に評価する
16	レポート提出

【履修上の注意事項】

「経営分析」を履修済みの学生しか登録できません。

【評価方法】

出席20%，レポート80%で評価します。

【テキスト】

使用しません。

【参考文献】

森田松太郎『ビジネスゼミナール経営分析入門・第3版』日本経済新聞社。
田中弘『経営分析：会計データを読む技法』中央経済社。

経済原論 I

担当教員 仲地 健

対象学年 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

経済学はミクロ経済学とマクロ経済学の二つに大きく分けられるが、「経済原論 I」ではミクロ経済学を学ぶ。具体的には、経済を構成する個々の消費者や企業はどのような行動をとるのか、市場において財・サービスの価格や数量はどのように決定されるのかを学ぶ。”

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	講義内容と講義の進め方、成績評価方法を説明する。
2	需要曲線と供給曲線
3	市場均衡と均衡の安定性
4	需要曲線・供給曲線のシフト
5	価格弾力性①
6	価格弾力性②
7	余剰分析①
8	余剰分析②
9	消費者行動の理論①
10	消費者行動の理論②
11	生産者行動の理論①
12	生産者行動の理論②
13	パレート最適
14	市場の失敗と独占
15	講義の総括
16	期末試験

【履修上の注意事項】

私語は厳禁。

【評価方法】

試験結果で評価する。

【テキスト】

特に指定しない。

【参考文献】

石川秀樹『速習！ミクロ経済学一試験攻略入門塾』中央経済社2011年。

経済原論Ⅱ

担当教員 仲地 健

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

マクロ経済学とは、一国の経済を個人の総体である家計部門、企業の総体である企業部門および政府部門の3つの主体による活動と捉え、社会全体を包括的に分析する学問である。マクロ経済学を学ぶ目的は、国民所得はどのように決定されるのか、デフレや失業といった経済現象がなぜ生じるのか、といったことを理解することにある。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	講義内容と講義の進め方、成績評価方法を説明する。
2	国民所得の諸概念
3	財市場分析① 有効需要の原理
4	財市場分析② 消費関数・投資関数
5	財市場分析③ 均衡国民所得
6	財市場分析④ 乗数理論
7	財市場分析⑤ 政府部門の導入
8	財市場分析⑥ 海外部門の導入
9	貨幣市場分析①
10	貨幣市場分析②
11	IS-LM分析① IS曲線の導出
12	IS-LM分析② LM曲線の導出
13	特殊なIS-LM曲線
14	クラウディング・アウト
15	講義の総括
16	期末試験

【履修上の注意事項】

私語は厳禁。

【評価方法】

試験結果で評価する。

【テキスト】

特に指定しない。

【参考文献】

石川秀樹『速習！ミクロ経済学—試験攻略入門塾』中央経済社2011年
中谷巖『入門マクロ経済学』日本評論社

原価計算 I

担当教員 木村 眞実

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本授業では、原価計算の計算問題を解くことで、原価計算への理解を深めることを目的としています。

【授業の展開計画】

原価計算 I・IIを通じて、日商簿記検定2級工業簿記における原価計算を学習します。具体的には、テキストとトレーニングを用いて、原価計算の計算問題に取り組みます。

週	授 業 の 内 容
1	原価計算の基礎
2	テーマ3材料費 (I)
3	テーマ4材料費 (II)
4	テーマ5労務費 (I)
5	テーマ6労務費 (II)
6	テーマ7経費
7	ここまでの復習
8	テーマ8個別原価計算 (I)
9	テーマ8個別原価計算 (I) つづき 製造間接費の予定配賦
10	テーマ9個別原価計算 (II)
11	テーマ10部門別個別原価計算 (I)
12	テーマ10部門別個別原価計算 (I) つづき 第2次集計
13	テーマ11部門別個別原価計算 (II)
14	テーマ11部門別個別原価計算 (II) つづき 製造部門費の予定配賦
15	これまでの復習
16	

【履修上の注意事項】

基礎知識：簿記で学習した「振替仕訳」を理解していること。講義計画：受講生の理解度を見ながら、講義の内容を立てていきますので、多少、授業計画から変更する可能性があることをご了承ください。持ち物：テキスト・トレーニング（無いと授業が楽しくありません）、電卓（12桁以上）。※本授業の履修を決めた方は、第1回の授業に間に合うように、テキスト・トレーニングを、早く入手して下さい。その他：関連科目は工業簿記 I です。本授業では、工業簿記 I において講義をしていない原価計算の問題についても取り扱います。

【評価方法】

定期試験70%、平常点（小テスト・宿題等）30%

【テキスト】

- ・TAC簿記検定講座『合格テキスト日商簿記2級工業簿記 ※最新版』TAC出版、2,100円
- ・TAC簿記検定講座『合格トレーニング日商簿記2級工業簿記 ※最新版』TAC出版、1,575円

【参考文献】

- ・滝澤ななみ『簿記の教科書日商2級 工業簿記』TAC出版、945円
- ・谷武幸『エッセンシャル原価計算』中央経済社、2,730円

原価計算Ⅱ

担当教員 木村 眞実

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本授業では、原価計算の計算問題を解くことで、原価計算への理解を深めることを目的としています。

【授業の展開計画】

原価計算Ⅰ・Ⅱを通じて、日商簿記検定2級工業簿記における原価計算を学習します。具体的には、テキストとトレーニングを用いて、原価計算の計算問題に取り組みます。

週	授 業 の 内 容
1	テーマ12総合原価計算（Ⅰ）
2	テーマ13総合原価計算（Ⅱ）
3	テーマ13総合原価計算（Ⅱ）つづき 直接材料の投入方法
4	テーマ14総合原価計算（Ⅲ）
5	テーマ14総合原価計算（Ⅲ）つづき 減損・先入先出法
6	テーマ14総合原価計算（Ⅲ）つづき 仕損・副産物
7	テーマ15総合原価計算（Ⅳ）
8	テーマ16総合原価計算（Ⅴ）
9	テーマ18標準原価計算（Ⅰ）
10	テーマ19標準原価計算（Ⅱ）
11	テーマ20標準原価計算（Ⅱ）つづき 製造間接費差異の分析
12	テーマ20直接原価計算（Ⅰ）
13	テーマ21直接原価計算（Ⅱ）
14	テーマ21直接原価計算（Ⅱ）つづき 原価の固定分解
15	これまでの復習
16	

【履修上の注意事項】

基礎知識：原価計算Ⅰまたは工業簿記Ⅰで学習した内容を理解していることが求められます。持ち物：テキスト・トレーニング（無いと授業が楽しくありません）、電卓（12桁以上）。※本授業の履修を決めた方は、第1回の授業に間に合うように、テキスト・トレーニングを、早く入手して下さい。その他：関連科目は工業簿記Ⅱです。本授業では、工業簿記Ⅱにおいて講義をしていない原価計算の問題についても取り扱います。

【評価方法】

定期試験70%、平常点（小テスト・宿題等）30%

【テキスト】

- ・TAC簿記検定講座『合格テキスト日商簿記2級工業簿記 ※最新版』TAC出版、2,100円
- ・TAC簿記検定講座『合格トレーニング日商簿記2級工業簿記 ※最新版』TAC出版、1,575円

【参考文献】

- ・滝澤ななみ『簿記の教科書日商2級 工業簿記』TAC出版、945円
- ・谷武幸『エッセンシャル原価計算』中央経済社、2,730円

工業簿記 I

担当教員 木村 眞実

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本授業では、日商簿記検定試験2級工業簿記を意識し、工業簿記の問題を概ね解答できるようになることを目的としています。

【授業の展開計画】

工業簿記 I・IIを通じて、日商簿記検定試験2級工業簿記の範囲を学習します。授業ではテキストで解説を行い、トレーニングで問題に取り組みます。なお、工業簿記 I と II には、前期に工業簿記 I と II を開講する「Aコース」と、前期に工業簿記 I を後期に工業簿記 II を開講する「Bコース」があります。短期集中の学習を希望する方（前期に一通り学習を終えたい方、11月の検定試験受験を予定している方等）にはAコース、長期での学習を希望する方等にはBコースをお勧めします。

週	授 業 の 内 容
1	テーマ1工業簿記の基礎
2	テーマ2工業簿記の勘定連絡
3	テーマ3材料費（I）
4	テーマ4材料費（II）
5	テーマ5労務費（I）
6	テーマ6労務費（II）
7	テーマ7経費
8	テーマ8個別原価計算（I）
9	テーマ8個別原価計算（I）つづき 製造間接費の予定配賦
10	テーマ9個別原価計算（II）
11	テーマ10部門別個別原価計算（I）
12	テーマ10部門別個別原価計算（I）つづき 第2次集計
13	テーマ11部門別個別原価計算（II）
14	テーマ11部門別個別原価計算（II）つづき 製造部門費の予定配賦
15	これまでの復習
16	

【履修上の注意事項】

基礎知識：簿記で学習した「振替仕訳」を理解していること。持ち物：テキスト・トレーニング（無いと授業が楽しくありません）、電卓（12桁以上）。※本授業の履修を決めた方は、第1回の授業に間に合うように、テキスト・トレーニングを、早く入手して下さい。その他：本授業によって、日商簿記検定試験2級工業簿記レベルの問題を概ね解答できるようになりますが、2級「合格」のためには自主学習が必要です。関連科目は「原価計算I」です。

【評価方法】

定期試験70%、平常点（小テスト・宿題等）30%

【テキスト】

- ・TAC簿記検定講座『合格テキスト日商簿記2級工業簿記 ※最新版』TAC出版、2,100円
- ・TAC簿記検定講座『合格トレーニング日商簿記2級工業簿記 ※最新版』TAC出版、1,575円

【参考文献】

- ・滝澤ななみ『簿記の教科書日商2級 工業簿記』TAC出版、945円
- ・谷武幸『エッセンシャル原価計算』中央経済社、2,730円
- ・TAC簿記検定講座『日商簿記2級 網羅型完全予想問題集』TAC出版、945円

工業簿記Ⅱ

担当教員 木村 眞実

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期・後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本授業では、日商簿記検定試験2級工業簿記を意識し、工業簿記の問題を概ね解答できるようになることを目的としています。

【授業の展開計画】

工業簿記Ⅰ・Ⅱを通じて、日商簿記検定試験2級工業簿記の範囲を学習します。授業ではテキストで解説を行い、トレーニングで問題に取り組みます。なお、工業簿記ⅠとⅡには、前期に工業簿記ⅠとⅡを開講する「Aコース」と、前期に工業簿記Ⅰを後期に工業簿記Ⅱを開講する「Bコース」があります。短期集中の学習を希望する方（前期に一通り学習を終えたい方、11月の検定試験受験を予定している方等）にはAコース、長期での学習を希望する方等にはBコースをお勧めします。

週	授 業 の 内 容
1	テーマ12総合原価計算（Ⅰ）
2	テーマ13総合原価計算（Ⅱ）
3	テーマ13総合原価計算（Ⅱ） つづき 直接材料の投入方法
4	テーマ14総合原価計算（Ⅲ）
5	テーマ14総合原価計算（Ⅲ） つづき 減損・先入先出法
6	テーマ15総合原価計算（Ⅳ）
7	テーマ16総合原価計算（Ⅴ）
8	テーマ17財務諸表
9	テーマ18標準原価計算（Ⅰ）
10	テーマ19標準原価計算（Ⅱ）
11	テーマ20標準原価計算（Ⅱ） つづき 製造間接費差異の分析
12	テーマ20直接原価計算（Ⅰ）
13	テーマ21直接原価計算（Ⅱ）
14	テーマ21直接原価計算（Ⅱ） つづき 原価の固変分解
15	テーマ22本社工場会計
16	

【履修上の注意事項】

基礎知識：簿記で学習した「振替仕訳」を理解していること。持ち物：テキスト・トレーニング（無いと授業が楽しくありません）、電卓（12桁以上）。※本授業の履修を決めた方は、第1回の授業に間に合うように、テキスト・トレーニングを、早く入手して下さい。その他：本授業によって、日商簿記検定試験2級工業簿記レベルの問題を概ね解答できるようになりますが、2級「合格」のためには自主学習が必要です。関連科目は「原価計算Ⅰ」です。

【評価方法】

定期試験70%、平常点（小テスト・宿題等）30%

【テキスト】

- ・TAC簿記検定講座『合格テキスト日商簿記2級工業簿記 ※最新版』TAC出版、2,100円
- ・TAC簿記検定講座『合格トレーニング日商簿記2級工業簿記 ※最新版』TAC出版、1,575円

【参考文献】

- ・滝澤ななみ『簿記の教科書日商2級 工業簿記』TAC出版、945円
- ・TAC簿記検定講座『日商簿記2級 網羅型完全予想問題集』TAC出版、945円

広告論

担当教員 野原 寿加子

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

広告に関する基本的な考え方、しくみを習得する。

【授業の展開計画】

広告に関する基本的な考え方、しくみを習得しながら、実際の広告を元にディスカッションなどを行い理解を深めていく。

【履修上の注意事項】

積極的に学ぶ姿勢を重視する。

【評価方法】

試験、課題、出席および授業態度などを総合的に評価する。

【テキスト】

「広告入門」 著者：梶山皓 発行所：日本経済新聞出版社

【参考文献】

必要に応じて講義中に紹介。

小売流通論 I

担当教員 河田 賢一

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義は、学生の皆さんが日々利用している小売業における大きな変化を様々な現代的な視点から見ていきます。小売業のイノベーションの回ではユニクロ、大手小売業の再編の回ではイオンを取り上げます。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	日本経済の構造変化と流通業①
3	日本経済の構造変化と流通業②
4	小売業のイノベーション①
5	小売業のイノベーション②
6	小売業のイノベーション③
7	小売業のイノベーション④
8	大手小売業の再編①
9	大手小売業の再編②
10	大手小売業の再編③
11	大手小売業の再編④
12	外資小売のインパクト①
13	外資小売のインパクト②
14	外資小売のインパクト③
15	講義のまとめ
16	期末試験

【履修上の注意事項】

講義開始とともに出席カードを配布します。その時点で教室にいない場合は欠席となります。

講義時間中に限らず、開始前・終了後に教室の机に座った場合には減点となります。トイレに友人と一緒にいく必要はありません。長時間教室に戻ってこない場合には欠席扱いとなります。講義時間中にタバコを吸いに行った場合には、即座に単位『不可』となります。

【評価方法】

期末試験（70%）、出席点および受講態度（30%）

【テキスト】

伊藤元重編（2005）『日本の産業システム6 新流通産業』NTT出版

【参考文献】

小売流通論Ⅱ

担当教員 河田 賢一

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義は、学生の皆さんが日々利用している小売業における大きな変化を様々な現代的な視点から見ていきます。また沖縄県内の小売業についても分析していきます。沖縄県内の小売業についても取り上げるため3年生には就職活動に役立つと思います。コンビニエンスストアの革新の回では、お弁当などの日配商品の廃棄問題についても取り上げます。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	沖縄県内の小売業
3	百貨店はどこへ行くのか①
4	百貨店はどこへ行くのか②
5	百貨店はどこへ行くのか③
6	コンビニエンスストアの革新①
7	コンビニエンスストアの革新②
8	コンビニエンスストアの革新③
9	コンビニエンスストアの革新④
10	戦後の日本における小売業発展のダイナミズム①
11	戦後の日本における小売業発展のダイナミズム②
12	戦後の日本における小売業発展のダイナミズム③
13	新物流産業の登場①
14	新物流産業の登場②
15	講義のまとめ
16	期末試験

【履修上の注意事項】

講義開始とともに出席カードを配布します。その時点で教室にいない場合には欠席となります。講義時間中に限らず、開始前・終了後に教室の机に座った場合には減点となります。トイレに友人と一緒にいく必要はありません。長時間教室に戻ってこない場合には欠席扱いとなります。講義時間中にタバコを吸いに行った場合には、即座に単位『不可』となります。

【評価方法】

期末試験（70%）、出席点および受講態度（30%）

【テキスト】

伊藤元重編（2005）『日本の産業システム6 新流通産業』NTT出版

【参考文献】

国際関係論

担当教員 安座真 喜松

対象学年 3年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

現代は、「国際化」あるいは「相互依存」の時代といわれている。この講義では、第二次大戦後の国際政治経済の歴史や構造について、国際政治学と国際経済学の学際的（言葉を換えて言えば、重なり合う部分の）視点から勉強していこうとするものである。国際関係学の初歩的および基本的なことを勉強する。講義を理解するためには国際関係の専門的な知識を必ずしも必要としない。国際関係論の「入門編」であり、特にこれまで政治学やその他国際関係を専門的に勉強したことのない人を対象としている。

【授業の展開計画】

1. 受講申請表 受理・取り消し
講義紹介および講師紹介
2. 序論 国際関係とは
分析のレベル
無政府状態
3. 国際関係の諸理論
4. 各論 国際社会の活動主体
国家
国際組織
IGO N I G O
国連 多国籍企業
5. EU
6. 国家下位組織
7. 冷戦
8. ベルリン問題（ビデオ）
9. 朝鮮戦争（ビデオ）
10. 冷戦の終焉（ビデオ）
ポーランド民主革命
11. 軍拡*軍縮
12. 米ソミサイル開発競争（ビデオ）
13. 南北問題
人口問題 人口爆発の衝撃（ビデオ）
14. 学期末試験

【履修上の注意事項】

【評価方法】

成績は上記の学期末試験に出席率を加味し次のように決定される。

100-90点「優」、90-80点「良」、80-60点「可」、60点以下「不可」

*ただし、試験の結果が優/良、良/可、可/不可等のボーダーラインある場合は出席率を加味して最終的な成績が与えられる。たとえば、優/良のボーダーラインある場合、出席率が良ければ優となり、そしてそれが悪ければ良となる。

【テキスト】

「はじめて学ぶ国際関係」高瀬淳一著 実務教育出版、1997

【参考文献】

初瀬龍平・他共編「国際関係キーワード」（有斐閣、1997）、他の参考書については授業中に適宜紹介する。

国際経営論 I

担当教員 天野 敦央

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

年間テーマを「中国経営」とする。本講義は、通年科目（全年科目）合計4.00単位に相当する。外国における経営管理の状況やそこで経営戦略の展開を研究するには、国内経営の研究同様に、体系的に知識把握することが比較的有効であると思われる。たとえば毛栄管理の状況をりかいしたいのであれば、①生産管理、②労働管理、③販売管理、④財務管理、および⑤経営組織といったような諸部分にそって把握していくのである。このことは、どこの国の経済・経営を研究する場合にも、応用できることといえよう。

【授業の展開計画】

本講座では、中国本土（中華人民共和国）の工場管理を例にとり、外国経営研究にとりくんでいく。東側国家や、発展途上国に特有の事象についても言及したい。

週	授 業 の 内 容
1	講義のすすめ方、評価のしかた
2	経営・企業概念
3	外国経営研究
4	中国経営研究
5	経営回復期
6	第1次五カ年計画の時期
7	大躍進の時期
8	経済調整政策の時期
9	文化大革命の時期
10	第4次五か年計画の時期
11	華国鋒政権の時期
12	経済改革政策への着手
13	経済改革の停滞期
14	経済改革・対外開放政策の時期
15	経営管理学説の展開
16	

【履修上の注意事項】

開講時期に指示する。開講日（4月・10月）には必ず出席し、登録手続きを行なってください。本科目は面談による選抜（抽選）登録科目です。登録手続きが不備だと登録・採点・評価されないことがあります。

【評価方法】

期末試験の評点に、平常点を加味し、最終的な評価を決定する。

【テキスト】

未定

【参考文献】

小川英次ほか（編）『経営学の基礎知識』有斐閣／伊丹敬之ほか『ゼミナール経営学入門』日本経済新聞社／芝川林也（編）『経営学演習』同文館

国際経営論Ⅱ

担当教員 天野 敦央

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

年間テーマを「中国経営」とする。本講義は、通年科目（全年科目）合計4.00単位に相当する。外国における経営管理の状況やそこで経営戦略の展開を研究するには、国内経営の研究同様に、体系的に知識把握することが比較的有効であると思われる。たとえば経営管理の状況をりかいしたいのであれば、①生産管理、②労働管理、③販売管理、④財務管理、および⑤経営組織といったような諸部分にそって把握していくのである。このことは、どこの国の経済・経営を研究する場合にも、応用できることといえよう。

【授業の展開計画】

本講座では、中国本土（中華人民共和国）の工場管理を例にとり、外国経営研究にとりくんでいく。東側国家や、発展途上国に特有の自称についても言及したい。

週	授 業 の 内 容
1	経営管理原則
2	内部経営管理組織
3	上級経営管理組織
4	経営管理制度（1）
5	経営管理制度（2）
6	国営工場の生産管理
7	国営工場の労働管理
8	国営工場の販売管理
9	国営工場の財務管理
10	企業形態
11	工場におけるイデオロギー的活動
12	工場における政治活動
13	教材学習（1）
14	教材学習（2）
15	まとめ
16	

【履修上の注意事項】

開講時期に指示する。開講日（4月・10月）には必ず出席し、登録手続きを行なってください。本科目は面談による選抜（制限）登録科目です。登録手続きが不備だと登録・採点・評価されないことがあります。

【評価方法】

小テストの評点に、出席点を加味し、最終的な評価を決定する。

【テキスト】

未定

【参考文献】

小川英次ほか（編）『経営学の基礎知識』有斐閣／伊丹敬之ほか『ゼミナール経営学入門』日本経済新聞社／芝川林也（編）『経営学演習』同文館

国際経済学

担当教員 仲地 健

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 前期・後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

世界的に進展している経済活動のグローバル化の現状を把握し、その背後にあるメカニズムを理解するための国際経済学の基礎的理論を学習し習得すること。

【授業の展開計画】

本講義では、経済活動のグローバル化が進展している状況を把握しながら、国際経済学の基礎知識を理論的に講義する。前半では、国際貿易の基礎理論を中心に講義する。後半では、経済政策の効果について学ぶ。

週	授 業 の 内 容
1	イントロダクション
2	国際貿易と日本の経済成長①
3	国際貿易と日本の経済成長②
4	貿易の基礎理論① 貿易の基本的メカニズム
5	貿易の基礎理論② 比較優位と絶対優位・為替レート調整
6	貿易の基礎理論③ ヘクシャー＝オリーンの命題、プロダクト・サイクル理論、雁行形態論
7	貿易政策と経済厚生① 消費者余剰と生産者余剰、輸入関税、輸入割当
8	貿易政策と経済厚生② 輸出自主規制、輸出税、輸出補助金
9	為替レートの決定①
10	為替レートの決定②
11	IS-LM分析① IS曲線とLM曲線
12	IS-LM分析② 固定相場制における財政・金融政策
13	IS-LM分析③ 変動相場制における財政・金融政策
14	ポリシーミックス
15	まとめ
16	期末試験

【履修上の注意事項】

私語は厳禁。

【評価方法】

試験結果で評価する。

【テキスト】

特に指定しない。

【参考文献】

その都度紹介する。

コンピュータ会計

担当教員 松村 陽子

対象学年 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 前期・後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

本講義は会計ソフト（弥生会計）の演習を通じてコンピュータ会計の仕組み、考え方を学習するものである。ソフトの操作に習熟することによりコンピュータ会計の概要が理解できるように講義を進めるが、単なる技術のみでなく簿記・会計についても理解が深まるような内容にしたい。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	コンピュータ会計の特徴、簿記一巡の手続きがどのようにソフト化されているか解説する
2	会社ファイルの作成、仕訳入力の方法について学習する
3	仕訳入力の練習を行う
4	各種の帳簿による仕訳入力の方法について学び、練習を行う
5	各種の帳簿による仕訳入力の方法について学び、練習を行う
6	勘定科目体系を解説し、科目設定・科目変更・補助科目設定の方法を学習する
7	補助管理の必要性、方法について解説し、補助簿の作成を練習する
8	補助簿の作成練習を行う
9	確認試験を行う
10	給与関係の会計処理、入力法について学習する
11	コンピュータ会計の導入方法について学習する。期首導入の練習を行う
12	コンピュータ会計の導入方法について学習する。期中導入の練習を行う
13	決算処理について学習し、決算書の作成練習を行う
14	決算処理について学習し、決算書の作成練習を行う
15	決算処理について学習し、決算書の作成練習を行う
16	最終試験

【履修上の注意事項】

簿記の仕訳処理が毎回ありますので、簿記の基本的学習ができていることが望ましいです。

講義開始時に出席を取ります。

講義は毎回新しく学習する操作があり、欠席するとその後の理解に支障をきたしますので欠席しないようにしてください。

その他受講する際の注意事項については、第一回目の講義の時に説明します。

【評価方法】

試験の結果（50%）と出席状況（25%）、授業への参加姿勢（25%）により評価します。やむを得ず欠席するときは欠席届を提出してください。

【テキスト】

テキストは使用しません。毎回練習用プリントを配ります。

【参考文献】

『コンピュータ会計入門』 山本誠編著 中央経済社
『電子会計 実務検定試験 公式ガイドブック』初級・中級 日本商工会議所編集

サービス・マーケティング

担当教員 親泊 元彦

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

サービス経済化の進展とともに、サービスという無形財がより一層注目されてきている。それは、従来のサービス業のマーケティングにとどまらず、有形商品に付随したサービスをどのように開発し顧客満足に繋げていくかというところにも関連している。本講義では、企業の成功事例の紹介（ケース・スタディ）を通して理論構築に繋げ「理論と実践の融合」を図っていく。特に、時代のトレンドである「顧客満足から顧客感動へ」というテーマにも言及し更なる理解を深めていく。

【授業の展開計画】

- ☆ オリエンテーション・ガイダンス
- ☆ サービスマーケティングの定義・サービス商品の特徴
- ☆ サービス環境の変化とマーケティング戦略
- ☆ マーケティング・ミックスの開発
- ☆ 顧客満足と顧客感動
- ☆ 成功事例の研究
- ☆ サービスとホスピタリティ
- ☆ 学期末試験

【履修上の注意事項】

- (1) 出席を重視する。
- (2) 受講態度を重視する。
- (3) 課題・レポート提出。

【評価方法】

出席・受講態度・学期末試験等で総合的に評価する。

【テキスト】

初回の講義で指定する。

【参考文献】

初回の講義で指定する。

財務会計 I

担当教員 鶴池 幸雄

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

現行の公表会計制度は、企業の一定時点の財政状態や一期間の経営成績並びに資金フローの状態を財務諸表の利用によって外部の利害関係者に報告することを目的としている。このような財務諸表によって企業のどのような活動が写像されているかを理解するためには、企業の資本活動が、会計システムという媒介によって、どのようにとらえられているかを理解することが本講のねらいである。

【授業の展開計画】

本講義では、企業が作成する財務諸表について、どのような企業活動が前提にあり、これがどのような考え方に基づいて認識、測定、記録、表示されているかについての学生の理解を深めることにする。そこでは我が国の会計原則の規範である「企業会計原則」を損益計算書を基本とし、当該財務諸表によってもたらされる企業活動情報の総合的な理解を図ることにする。

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	会計主体論
3	会計公準論
4	企業会計原則と会社法
5	企業会計の一般原則 I
6	企業会計の一般原則 II
7	損益計算書概論
8	収益・費用の認識と測定 I
9	収益・費用の認識と測定 II
10	収益・費用の認識と測定 III
11	費用と収益の対応
12	営業損益計算
13	期間業績計算
14	包括利益計算
15	損益計算書総論
16	試験

【履修上の注意事項】

商業簿記Ⅱ、会計学を履修済みであることが望ましい。

【評価方法】

授業への参加姿勢、試験、レポート等を総合的に評価する。

【テキスト】

『財務会計 第11版』 広瀬 義州 中央経済社

【参考文献】

財務会計Ⅱ

担当教員 鶴池 幸雄

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

現行の公表会計制度は、企業の一定時点の財政状態や一期間の経営成績並びに資金フローの状態を財務諸表の利用によって外部の利害関係者に報告することを目的としている。このような財務諸表によって企業のどのような活動が写像されているかを理解するためには、企業の資本活動が、会計システムという媒介によって、どのようにとらえられているかを理解することが本講のねらいである。

【授業の展開計画】

本講義では、企業が作成する財務諸表について、どのような企業活動が前提にあり、これがどのような考え方に基づいて認識、測定、記録、表示されているかについての学生の理解を深めることにする。そこでは我が国の会計原則の規範である「企業会計原則」、貸借対照表を基本とし、企業グループ会計の視点を取り入れ、財務諸表によってもたらされる企業活動情報の総合的な理解を図ることにする。

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	貸借対照表概論
3	貸借対照表の分類基準
4	流動資産の会計処理Ⅰ
5	流動資産の会計処理Ⅱ
6	固定資産の会計処理Ⅰ
7	固定資産の会計処理Ⅱ
8	繰延資産の会計処理
9	負債の会計処理
10	純資産の部の会計処理
11	連結財務諸表Ⅰ（概論）
12	連結財務諸表Ⅱ（資本連結）
13	連結財務諸表Ⅲ（P/L、B/Sの作成）
14	連結財務諸表Ⅳ（連結財務諸表の利用）
15	試験
16	

【履修上の注意事項】

商業簿記Ⅱ、会计学、財務会計Ⅰを履修済みであることが望ましい。

【評価方法】

授業への参加姿勢、試験、レポート等を総合的に評価する

【テキスト】

『財務会計 第11版』 広瀬 義州 中央経済社

【参考文献】

資金会計

担当教員 鶴池 幸雄

対象学年 3年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

今日、企業の実態を把握するための財務諸表のひとつとしてキャッシュ・フロー計算書が導入されている。これは、企業活動を総括的な資本活動だけではなく、「資金的」な視点から把握することの重要性の表れである。これにより、企業の「資金」が、どのような企業活動によって生み出され、また費消されているかを理解することが可能となる。企業内の資金の動きを理解し、より多角的に企業活動の把握を行うことが本講のねらいである。

【授業の展開計画】

本講義では、キャッシュ・フロー計算書を基本として企業資金活動がどのようにして会計上把握されるかを見ると同時に、キャッシュ・フロー計算が一期間の企業実体のフロー表示としてどのような重要性を持ちうるかを、実現損益計算によってもたらされる企業活動情報との比較を通じて多角的に考察していくことにする。そのことにより、企業の利害関係者に対する会計情報の果たす役割について学生のより深い理解を進めることにする。

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	資金会計概論
3	キャッシュ・フロー計算Ⅰ(概論)
4	キャッシュ・フロー計算Ⅱ(キャッシュ・フロー計算書の作成①)
5	キャッシュ・フロー計算Ⅲ(キャッシュ・フロー計算書の作成②)
6	キャッシュ・フロー計算Ⅳ(キャッシュ・フロー計算書の構造)
7	損益情報とキャッシュ・フロー計算書情報の比較
8	キャッシュ・フロー情報の利用(ディスカунティッド・キャッシュ・フロー)
9	キャッシュ・フロー情報の利用(ネット・プレゼント・バリュー)
10	キャッシュ・フロー情報の利用(キャッシュ・フロー計算書による企業分析)
11	外貨建資金取引の会計処理Ⅰ
12	外貨建資金取引の会計処理Ⅱ
13	金融資金取引の会計処理(リース取引)
14	金融資金取引の会計処理(デリバティブ取引)
15	キャッシュ・フローと企業会計
16	試験

【履修上の注意事項】

財務会計Ⅰを履修済みであることが望ましい。

【評価方法】

授業への参加、試験、レポートを総合して評価を行う

【テキスト】

受講時に指示する

【参考文献】

市場調査演習

担当教員 一饒平名 知也

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

市場調査は、企業もしくは組織におけるマーケティングの意志決定を支援するために行う、調査・実験のことである。本講義では実際に調査を行い、前期で学んだ調査手法によって得られた情報を元に、実際にどのように新製品開発に生かされるのか、また既存製品の改良、流通ルートを選択、広告内容の決定などにも利用されるかを検証する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	演習オリエンテーション
2	演習オリエンテーション, 定量調査の方法
3	定量調査の方法, 定性調査の方法
4	定性調査の方法
5	調査対象者の選定と調査票の設計
6	調査対象者の選定と調査票の設計
7	調査の実査
8	調査の実査
9	調査の集計と分析
10	調査の集計と分析
11	調査結果とプレゼンテーション1
12	調査結果とプレゼンテーション1
13	調査結果とプレゼンテーション2
14	調査結果とプレゼンテーション2
15	まとめ
16	テスト

【履修上の注意事項】

- a. 出席を重視
- b. 授業中のおしゃべりは他の学生の迷惑となるので退出してもらう

【評価方法】

出席、発表、レポート、テストを総合的に評価する

【テキスト】

開講時に指定します

【参考文献】

マーケティング戦略 : 有斐閣アルマ 和田充夫編著

市場調査総論

担当教員 一饒平名 知也

対象学年 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

市場調査は、企業もしくは組織におけるマーケティングの意志決定を支援するために行う、調査・実験のことである。市場調査によって得られた情報は、新製品開発のプロセスで利用されることが多いが、既存製品の改良、流通ルートを選択、広告内容の決定などにも利用される。本講義では、例題やプリントを用いて市場調査の基本を学び、後期の市場調査演習に向けた準備を行う。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	授業オリエンテーション・マーケティングの基礎
2	授業オリエンテーション・マーケティングの基礎, マーケティングにおける市場調査の意義
3	マーケティングにおける市場調査の意義, 市場調査の概要
4	市場調査の概要
5	市場調査のケーススタディー 1
6	市場調査のケーススタディー 1
7	市場調査のケーススタディー 2
8	市場調査のケーススタディー 2
9	調査手法 1
10	調査手法 1
11	調査手法 2
12	調査手法 2
13	市場調査の課題
14	市場調査の課題
15	まとめ
16	テスト

【履修上の注意事項】

- a. 出席を重視
- b. 授業中のおしゃべりは他の学生の迷惑となるので退出してもらう

【評価方法】

出席、発表、レポート、テストを総合的に評価する

【テキスト】

開講時に指定します

【参考文献】

マーケティング戦略 : 有斐閣アルマ 和田充夫編著

商業史

担当教員 河田 賢一

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義は、商学概論で学んだ内容を基礎とし、流通・商業の歴史について学んでいきます。流通・商業の歴史を年代ごとに見ていった場合、同年代に他業態（業界）の動きがあり、ひとつひとつを体系的に学んでゆくことができません。そこで本講義においてはひとつひとつの業態（業界）の歴史について学んでいきます。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	百貨店の日本的展開とマーケティング①
3	百貨店の日本的展開とマーケティング②
4	百貨店の日本的展開とマーケティング③
5	スーパーの日本的展開とマーケティング①
6	スーパーの日本的展開とマーケティング②
7	スーパーの日本的展開とマーケティング③
8	コンビニエンスストアの日本的展開とマーケティング①
9	コンビニエンスストアの日本的展開とマーケティング②
10	コンビニエンスストアの日本的展開とマーケティング③
11	コンビニエンスストアの日本的展開とマーケティング④
12	生活協同組合の日本的展開とマーケティング①
13	生活協同組合の日本的展開とマーケティング②
14	生活協同組合の日本的展開とマーケティング③
15	講義のまとめ
16	期末試験

【履修上の注意事項】

講義開始時刻とともに出席カードを配布します。その時点で教室にいない場合は欠席となります。講義時間中に限らず、開始前・終了後に机に座った場合には減点となります。トイレに友人と一緒にに行く必要はありません。長時間教室に戻ってこない場合には欠席扱いとなります。講義時間中にタバコを吸いに行った場合には、即座に単位『不可』となります。

【評価方法】

期末試験（70%）、出席点・受講態度（30%）

【テキスト】

マーケティング史研究会編（2001）『日本流通産業史 -日本のマーケティングの展開-』同文館出版

【参考文献】

商業簿記 I

担当教員 鶴池 幸雄

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

ビジネスの基礎として、企業の日常的活動を認識、測定、記録、報告を行う会計システムについての基礎的な理解を涵養する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	簿記の基礎	17	売掛金・買掛金の記帳
2	資産・負債・資本と貸借対照表	18	その他債権債務①
3	収益・費用と損益計算書	19	その他債権債務②
4	取引と勘定科目	20	手形取引①
5	取引要素の結合関係	21	手形取引②
6	仕訳①	22	手形取引③
7	仕訳②	23	有価証券
8	勘定口座と元帳	24	固定資産と減価償却
9	試算表	25	資本金と引出金
10	精算表	26	決算整理①
11	決算	27	決算整理②
12	現金・当座預金	28	決算整理③
13	小口現金	29	決算整理④
14	商品売買の記帳①	30	試験 I
15	商品売買の記帳②	31	試験 II
16	商品売買の記帳③		

【履修上の注意事項】

簿記による企業の記録は、ビジネスのツールとして非常に重要であるため、これを間違いなく行うことが出来るように、復習を必ず行いマスターしてください。

【評価方法】

小テスト、総合試験の点数に基づいて評価します。

【テキスト】

開講時に指示します。

【参考文献】

商業簿記 I

担当教員 大城 建夫

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

簿記の知識は、個人及び法人企業、公益法人、官公庁等に広く活用され、国内外にも共通するものです。この講義は、簿記初学者が簿記の「基本概念」、「計算原理」、「作成技術」などを習得することを目的としています。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	簿記の意義と役割	17	その他の債権・債務
2	資産・負債・資本と貸借対照表	18	手形取引
3	収益・費用と損益計算書	19	手形取引
4	学習簿記と簿記一巡の流れ	20	有価証券
5	複式簿記の原理と勘定科目論	21	有価証券
6	仕訳帳と元帳の記入と役割	22	固定資産
7	仕訳帳と元帳の記入と役割	23	固定資産
8	試算表と精算表の作成と役割	24	個人企業の資本と税金
9	試算表と精算表の作成と役割	25	決算予備手続き
10	決算	26	決算予備手続き
11	決算	27	決算手続き等
12	現金・預金の取引	28	決算手続き等
13	現金・預金の取引	29	決算手続き等
14	商品売買取引	30	総まとめ
15	商品売買取引	31	期末テスト
16	その他の債権・債務		

【履修上の注意事項】

講義と練習問題を交互に行うため、下記テキストとワークブックを必ず購入すること。

日商簿記3級程度の実力を養成できる講義でもあるため、受講生は、単位取得だけでなく、資格取得も目標にしてみたい。

【評価方法】

出席状況、期末試験、学生の質問内容、簿記検定合格等で総合評価

【テキスト】

上江洲・大城編著『簿記の技法とシステム』同文館出版
段階式日商簿記ワークブック3級商業簿記、税務経理協会

【参考文献】

武田隆二『簿記一般教程』中央経済社

商業簿記 I

担当教員 清村 英之

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

会社の活動を記録し、計算・整理する技術を簿記といいます。簿記を行うことによって、会社は自己の財産を管理し、経営成績（いくらもうかったか）と財政状態（財産や借金がいくらあるか）を知ることができます。

この講義では、取引の仕訳から元帳への転記、試算表・精算表・財務諸表の作成にいたる簿記一巡の手続を解説します。簿記を十分に理解するためには、数多くの練習問題を解くことが必要です。したがって、テキストやプリントの練習問題を中心に講義を進めます。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス	17	売掛金と買掛金
2	企業の簿記	18	手形
3	資産・負債・純資産と貸借対照表	19	手形
4	収益・費用と損益計算書	20	その他の債権・債務
5	取引と勘定	21	有価証券
6	仕訳と転記	22	有価証券
7	仕訳と転記	23	固定資産
8	試算表	24	固定資産
9	精算表	25	資本金と引出金
10	決算（その1）	26	決算（その2）
11	決算（その1）	27	決算（その2）
12	財務諸表の作成	28	決算（その2）
13	現金と預金	29	決算（その2）
14	現金と預金	30	決算（その2）
15	商品売買	31	期末テスト
16	商品売買		

【履修上の注意事項】

初回講義に欠席した場合、登録を取り消すこともあります（2年次以上）。

【評価方法】

出席20%，テスト80%で評価します。

【テキスト】

清村英之『簿記が基礎からわかる本—中級レベルまで』同文館出版。

【参考文献】

渡部裕亘他『新検定簿記ワークブック 3級／商業簿記』中央経済社。

商業簿記Ⅱ

担当教員 清村 英之

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

この講義では、「商業簿記Ⅰ」で学んだ簿記の基礎を踏まえ、特殊商品売買、株式会社の会計、本支店会計など、一歩進んだ簿記の手続を解説します。簿記を十分に理解するためには、数多くの練習問題を解くことが必要です。したがって、テキストやプリントの練習問題を中心に講義を進めます。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス	17	決算
2	諸取引の処理：銀行勘定調整表	18	決算
3	諸取引の処理：特殊商品売買	19	決算
4	諸取引の処理：特殊商品売買	20	財務諸表の作成
5	諸取引の処理：有価証券	21	財務諸表の作成
6	諸取引の処理：手形	22	財務諸表の作成
7	諸取引の処理：手形	23	財務諸表の作成
8	諸取引の処理：有形固定資産	24	本支店会計：本支店間取引
9	諸取引の処理：無形固定資産	25	本支店会計：本支店間取引
10	株式会社の会計：繰延資産	26	本支店会計：合併財務諸表の作成
11	株式会社の会計：純資産	27	本支店会計：合併財務諸表の作成
12	株式会社の会計：合併・買収	28	本支店会計：合併財務諸表の作成
13	株式会社の会計：剰余金の配当と処分	29	本支店会計：合併財務諸表の作成
14	株式会社の会計：社債	30	本支店会計：合併財務諸表の作成
15	株式会社の会計：社債	31	期末テスト
16	株式会社の会計：税金		

【履修上の注意事項】

- ① 「商業簿記Ⅱ」を履修済みの学生しか登録できません。
- ② 初回講義に欠席した場合、登録を取り消すこともあります。

【評価方法】

出席20%，テスト80%で評価します。

【テキスト】

清村英之『簿記が基礎からわかる本—中級レベルまで』同文館出版。

【参考文献】

渡部裕亘他『新検定ワークブック 2級／商業簿記』中央経済社。

商業簿記Ⅱ

担当教員 松村 陽子

対象学年 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 4

【授業のねらい】

本講義では商業簿記Ⅰの履修を終了した学生に対し、中級程度の商業簿記の学習をするものである。応用的な取引の処理や株式会社の簿記などについて理解させることを目的とする。株式会社の簿記は、会社法の計算規定などとの関わりも理解しながら学んでいくことが重要である。日商簿記検定などの目標を持って、自覚して受講してもらいたい。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	現金預金取引
2	有価証券の特殊取引その1
3	有価証券の特殊取引その2
4	特殊な手形取引その1
5	特殊な手形取引その2
6	特殊商品売買その1
7	特殊商品売買その2
8	固定資産その1
9	固定資産その2
10	中間試験
11	株式会社の簿記の特徴, 純資産の部と表示
12	株式会社の設立・増資
13	株式会社の合併
14	社債
15	株式会社の税金
16	期末試験

【履修上の注意事項】

具体的には、講義と問題練習を繰り返して理解させたい。テキストとして使用する問題集以外にも数多くの問題を解くのが簿記上達の秘訣なので、各自で問題集を入手し解くなど積極的な取り組みを期待したい。受講生諸君は、日商簿記2級等の資格取得にも目標を持ってもらいたい。

【評価方法】

出席状況、授業への参加姿勢、試験の結果などを総合して判断する。

【テキスト】

上江洲、大城編著「簿記の技法とシステム」 同文館発行
段階式日商簿記ワークブック2級商業簿記 税務経理協会発行

【参考文献】

武田隆二「簿記Ⅱ」税務経理協会
山下正喜編著「簿記テキスト」創成社

商業簿記Ⅱ

担当教員 -上原 香代子

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義は、商業簿記Ⅰで基礎的な簿記システムを理解した学生を対象にしています。商業簿記Ⅱでは、株式会社の取引を中心に応用的な簿記の技術を学び、会社法の計算規定なども併せて学習します。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス	17	社債の処理
2	現預金の処理	18	繰延資産の処理
3	有価証券の処理	19	引当金の処理
4	債権債務の処理	20	株式会社の税金
5	手形取引の処理	21	本支店取引
6	手形取引の処理 2	22	本支店取引 2
7	商品売買取引の処理	23	本支店取引 3
8	商品売買取引の処理 2	24	本支店取引
9	商品売買取引の処理 3	25	決算整理
10	固定資産その他	26	決算整理 2
11	固定資産その他 2	27	精算表の作成
12	株式会社の設立等	28	精算表の作成 2
13	株式会社の設立等 2	29	財務諸表の作成
14	剰余金の処理	30	財務諸表の作成
15	剰余金の処理 2	31	期末テスト
16	中間テスト		

【履修上の注意事項】

商業簿記Ⅰの知識を前提とするのでよく復習しておいてください。

【評価方法】

試験等による理解の到達度及び出席状況等によって評価します。

【テキスト】

テキスト：開講時に指示します。

問題集：『段階式日商簿記ワークブック 2級商業簿記』税務経理協会

【参考文献】

上江洲由正、大城建夫編著『簿記の技術とシステム』同文館出版

清村英之『簿記の基礎からわかる本—中級レベルまで』同文館出版

消費者行動演習

担当教員 小原 満春

対象学年 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

本講義では、消費者行動の基礎的な諸理論を踏まえた上で、身近な具体的事例（ケーススタディ）を用いた、効果的なマーケティング戦略を考察する学習を行います。学生自身で商品・サービスを消費者行動の視点から問題点を指摘し、課題解決のための提案をするプロジェクトを行います。基礎理論を学び、ケーススタディを分析し、プロジェクトの発表を通して消費者行動をより深く理解することを目的とします。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション
2	消費者行動の基礎的先行研究・・・(1)
3	消費者行動の基礎的先行研究・・・(2)
4	プロジェクトの発表・・・(1)
5	プロジェクトの発表・・・(2)
6	プロジェクトの発表・・・(3)
7	プロジェクトの発表・・・(4)
8	プロジェクトの発表・・・(5)
9	プロジェクトの発表・・・(6)
10	プロジェクトの発表・・・(7)
11	プロジェクトの発表・・・(8)
12	プロジェクトの発表・・・(9)
13	プロジェクトの発表・・・(10)
14	プロジェクトの発表・・・(11)
15	プロジェクトの発表・・・(12)
16	レポートの提出とまとめ

【履修上の注意事項】

(1) 本講義は後期の消費者行動概論と連続したプログラムを組んでいます。理論を学び演習で実習プロジェクトを行うので前期の「消費者行動概論」とセットで登録する事が望ましい。

(2) 授業に出席を重視します。積極的に学ぶ姿勢が必要です。進んで発言し議論に参加すること。

(3) 授業中の携帯電話、私語、飲食など他の学生に迷惑になる行為は厳に慎むこと。場合によっては退出させます。

【評価方法】

発表・レポート50% 出席・議論への参加と発言50% 他 総合的に判断する。

【テキスト】

必要に応じて講義中に紹介します。

【参考文献】

杉本徹雄編 (1997) 『消費者理解のための心理学』福村出版、清水聰 (1999) 『新しい消費者行動』千倉書房
 平久保伸人 (2005) 『消費者行動論』ダイヤモンド社 田中洋 (2008) 『消費者行動論体系』中央経済社

消費者行動概論

担当教員 小原 満春

対象学年 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

消費者が商品やサービスを購入する時に、なにを基準に商品を選んでいるのでしょうか。それは消費者が所属している集団や、家庭環境などの外的要因と、経験や知識、好きや嫌いなどの内面的な要因が影響し合った結果、商品を選び購入していると考えられています。本講義では、購買に至る要因を消費者行動研究の研究内容を踏まえながら学びます。消費者行動を学ぶことにより、マーケティングにおける消費者行動の重要性について具体的に理解し、効果的なマーケティング戦略について考察する力を養うことを目的とします。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス・・・マーケティングと消費者行動
2	消費者行動とは
3	消費者の欲求と動機
4	購買意思決定プロセス・・・(1)
5	購買意思決定プロセス・・・(2)
6	消費者の態度
7	消費者の関与
8	消費者の知覚
9	購買行動と購買後行動
10	消費者の個人特性
11	消費者行動と状況要因
12	消費者行動と対人・集団要因
13	消費者行動と文化的要因
14	消費者行動とブランド
15	まとめ
16	学期末試験

【履修上の注意事項】

(1) 本講義は後期の消費者行動演習と連続したプログラムを組んでいます。理論を学び演習で実習プロジェクトを行うので後期の「消費者行動演習」とセットで登録する事が望ましい。

(2) 授業に出席を重視します。積極的に学ぶ姿勢が必要になります。

(3) 授業中の携帯電話、私語、飲食など他の学生に迷惑になる行為は厳に慎むこと。場合によっては退出させます。

【評価方法】

期末考査 60% 課題提出 30% 出席 10% を踏まえた上で総合的に評価します。

【テキスト】

杉本徹雄 (1997) 『消費者理解のための心理学』

【参考文献】

清水聡 (1999) 『新しい消費者行動』 千倉書房

平久保仲人 (2005) 『消費者行動論』 ダイアモンド社

田中洋 (2008) 『消費者行動論体系』 中央経済社

商法

担当教員 脇阪 明紀

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

平成17年の会社法新設以来、商法典そのものは空洞化してしまったが、商法そのものの重要性は、さらに深まったものといえるであろう。今日の経済界で大量的・継続的に行われる商取引、および経済主体間の利害調整や取引秩序の保護のために、商法は無くてはならない存在となっている。本講は、そのような商法の最も基礎的な部分をなしている商法総則・商行為法の知識の修得を主たる目的とする。

【授業の展開計画】

1. 原則法としての民法とその特別法としての商法との関係
2. 商人の種類
3. 商取引には、いかなるものがあるか？（絶対的商行為、営業的商行為など）
4. いつ商人になるか、いつ商人でなくなるか？いわゆる商人資格の得喪
5. 誰が商人になれるのか？いわゆる商人能力

【履修上の注意事項】

商法は経済的な利害関係に直結しているため、その関連の法分野を含めて、非常に改正される回数が多い法分野である。したがって、受講される学生におかれては、かならず最新の小六法を持参することをおすすめする。

【評価方法】

後期試験（論述式・表面のみ記述）の成績のみで評価する。レポート、宿題等は課さないが、ときどき出席をとる。出席状況も評価の参考とする。なお、追再試は、一切行わない。

【テキスト】

近藤光男「商法総則・商行為法」（第5版補訂版）（有斐閣）

【参考文献】

浅木慎一「商法総則・商行為法」（第2版）（中央経済社）

情報概論

担当教員 又吉 光邦

対象学年 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

現代における情報化社会において、多種多様な情報が存在する。そして、これらの情報は効率よく利用されなければ、情報本来の意味を持たない。ここで、計算機（コンピュータ）の存在は必要不可欠なものとなる。さらに、多くの情報は計算機によって、生産、加工、蓄積されている。本講義では、計算機の歴史、仕組み、論理、発展を通して、情報との関わりについて学ぶ。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	計算機の歴史
3	計算機の構造
4	符号化
5	論理演算
6	論理回路②
7	トランジスタの基本的な仕組み
8	CPUの仕組みと構造
9	コンピュータの種類と用途 その1
10	コンピュータの種類と用途 その2
11	プログラムの仕組み その1
12	プログラムの仕組み その2
13	ソフトウェアとハードウェア その1
14	ソフトウェアとハードウェア その2
15	コンピュータの最先端と未来
16	期末試験

【履修上の注意事項】

- ・第1週目のガイダンスを欠席した場合は、履修登録を認めない。
- ・1/3以上の欠席者は、期末試験の受験資格を与えない。
- ・45分以上、授業に遅刻した場合は、欠席とする。
- ・私語による周囲への迷惑をかけた場合は即退席を命じ、3度注意された場合は不可とする。

【評価方法】

出席点20点、期末試験80点の100点満点において、80点以上「優」、70～79点「良」、60～69点「可」、60点未満「不可」で評価する。

【テキスト】

「コンピュータの動く仕組み」、日東書院、音葉哲・大槻有一郎。

【参考文献】

情報科学入門（日本理工出版会、佐々木良一、他 著）、その他

情報リテラシー演習

担当教員 仲地 健

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

情報リテラシーとは、コンピュータを使った「読み・書き」などができる能力といわれている。情報化社会においては、単にコンピュータが使えるのではなく、目的に応じて柔軟に対応できることが必要となる。本講義では、ワープロ・表計算・プレゼンテーションソフトウェアの技能を身につけた者を対象として、ウェブサイト作成（HTML）を学ぶ。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	HTMLの基礎
3	文字のデザイン・カラーコード
4	リンク
5	スタイルシート
6	画像の加工方法
7	テーブル
8	フォーム
9	フレーム
10	ギャラリーページ
11	タグ以外のテクニック①
12	タグ以外のテクニック②
13	課題の実習①
14	課題の実習②
15	課題のプレゼンテーション
16	総括

【履修上の注意事項】

情報処理基礎（共通科目）を履修済みの者、もしくはそれと同等の技能を持つと認められた者にかぎり登録を受け付ける（同時履修は認めない）。

【評価方法】

課題・出席状況を総合的に判断し評価する。

【テキスト】

開講時に指定する。

【参考文献】

開講時に指定する。

人的資源管理論 I

担当教員 岩橋 建治

対象学年 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

企業において「ひと」は、重要な資源のひとつである。ひとはなぜ働くのか。どうすれば目標を見いだし努力するようになるのか。これらの問題について、働く環境が近年どのように変化しつつあるのかを踏まえた上で、検討していく。授業では、今日の人的資源管理（人事管理・労務管理）において見られる、さまざまなヒューマングループをとりあげ、そこでの問題を明らかにしていく。さらに、人的資源管理の諸制度とその動向を学ぶことで、従業員たちがよりよく働けるようになるための考え方の枠組を探求していく。

【授業の展開計画】

1. 人的資源管理（人事管理・労務管理）とは
2. 職務と組織の設計
 - (1) 職務設計
 - (2) 組織設計
3. ヒューマングループと人的資源管理
 - (1) 女性労働者
 - (2) 非正規労働者
 - (3) 高齢労働者
 - (4) 技術者
4. 人的資源管理制度とその変化
 - (1) 雇用管理
 - (2) 労使関係
 - (3) ワーク・ライフ・バランス

【履修上の注意事項】

なぜ働くのかについて、意識を高めて欲しい。

【評価方法】

期末試験（80%）、中間レポート（20%）

【テキスト】

奥林康司 編著（2010）『入門 人的資源管理 第2版』中央経済社。
加えて、適宜プリント配布。

【参考文献】

適宜紹介する。

人的資源管理論 II

担当教員 岩橋 建治

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

組織のなかの人間行動への理解を深める。人的資源管理（人事管理・労務管理）の諸制度とその動向を検討したうえで、職場における「ひと」の働きに関する諸理論を学ぶ。人間関係はなぜ重要なのか、どうすれば働く気になるのか、効果的なリーダーシップとはどのようなものか、人々を統合する企業理念とはいかなるものか、個人と組織との一体化にはどのような長所と短所があるのか、そして組織への愛着と誇りはいかにして生まれるのか、などのような問いについて考えていく。

【授業の展開計画】

1. 人的資源管理制度とその変化
 - (1) 賃金
 - (2) 昇進管理
 - (3) キャリアと人材育成
2. 職場におけるひとの働き
 - (1) 働く動機づけ（モチベーション）
 - (2) リーダーシップ
 - (3) 組織文化・企業理念
 - (4) 組織学習
 - (5) チームワーク

【履修上の注意事項】

「ひと」を扱う研究の性質上、心理学・社会学の理論も多用される。

【評価方法】

期末試験（80%）、中間レポート（20%）

【テキスト】

奥林康司 編著（2010）『入門 人的資源管理 第2版』中央経済社。
加えて、適宜プリント配布。

【参考文献】

適宜紹介する。

専門演習 I

担当教員 天野 敦央

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

年間テーマを、「経営管理論」とする。

本演習は3年次前期科目 2.00単位、3年次後期科目2.00単位、合計4.00単位からなっている。経営学の基本的概念を性格に理解するために、毎回テーマを決めて討論する。このほかに、各自がそれぞれ好きなテーマ（経営学の諸分野の中から）と好きな地域を決めて、その地域の経営の実状についてくわしく調べる。なお本演習イベント（合宿・学園祭・コンパ）への、ゼミ生諸君の積極的な関与を期待する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	演習のすすめ方、評価のしかた
2	研究対象
3	研究対象
4	アメリカ経営学
5	（ゼミ合宿）
6	ドイツ経営学
7	ドイツ経営学
8	企業論
9	企業論
10	経営管理
11	経営管理
12	意思決定
13	意思決定
14	経営戦略
15	経営戦略
16	

【履修上の注意事項】

報告（レポート発表）当日の発表者欠席は、みとめない。ゼミ提示板（第5314番教室前）の連絡事項に留意すること。

【評価方法】

提出のレポートの評定に、平常点を加味し、最終的な評価を決定する。

【テキスト】

未定

【参考文献】

古在由重（編）『哲学小辞典』岩波書店。小川英次ほか（編）『経営学の基礎知識』有斐閣。
日録刊行会（編）『経営図書総目録2012』東販。

専門演習 I

担当教員 清村 英之

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

この演習では、「使える会計知識」「役に立つ会計技法」を身につけることを目指して、会計が現代の経済社会の中でどのような役割を果たしているのか、会計の知識を得ることで何ができるのかを学びます。ただし、会計データの使い方を学ぶためには、その作り方を知らなければならないので、この一年間は会計データの作り方に重点をおきます。

また、ゼミ4年生やOB・OG（卒業生）との交流によって、就職への意識を高めていきます。

【授業の展開計画】

まず、①3～4人のグループを作り、グループで分析する業界と個人で分析する企業を選択します。次に、②インターネット等を利用して企業情報（特に会計情報）を収集し、様々な手法を用いてこれを分析し、その結果を発表します。なお、「授業のねらい」にも書いたように、この一年間は会計データの作り方の学習に重点を置くので、③資産会計、負債会計、純資産会計、損益会計などのテーマを各グループに割り振り、その発表と討論を通じ、会計学（財務会計）の理解を深めます。

【履修上の注意事項】

次のような学生を希望します。

- ① 遅刻や欠席をしない人。
- ② ゼミの時間に積極的に発言できる人。
- ③ ゼミの行事を優先し、ゼミ会、ゼミ合宿、学祭などに参加できる人。

【評価方法】

出席や発表などで、総合的に評価します。

【テキスト】

使用しません。

【参考文献】

必要に応じ、講義中に紹介します。

専門演習 I

担当教員 岩橋 建治

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

人的資源管理を中心とした、経営学に関するテキストの輪読、報告、および討論を行う。受講生は、ゼミでの学習をふまえて、後期ゼミ開始までに個々の卒業論文のおおまかなテーマを決定する。

【授業の展開計画】

(4月) 前期研究テーマの選択。それをもとに、報告のための課題文献の割り振り。

(4月～7月) パワーポイントを使った報告と討論。報告後、卒業論文作成にむけてのレポートと参考文献リストを作成・提出。

(夏休み) 卒業論文のための中間報告資料を作成(4000字程度)。中間報告は後期に行う。

参考として、12年度受講生が扱ったテーマは以下のとおり。

リーダーシップ、モチベーション、インセンティブ・システム、人材育成、企業者史、経営戦略、ベンチャー企業、マーケティング、飲食業、カフェ、アパレル産業、ファストファッション、HIPHOP関連事業、など。

【履修上の注意事項】

積極的な発言を求める。

【評価方法】

出席、演習への貢献度、および課題の完成度などにより総合的に評価する。

【テキスト】

受講生の意向を聞きながら決定する。12年度は、田尾雅夫 ほか編(2005)『はじめて経営学を学ぶ』ナカニシヤ出版、上林憲雄ほか(2007)『経験から学ぶ経営学入門』有斐閣、などを使用。

【参考文献】

適宜紹介する。

専門演習 I

担当教員 原田 優也

対象学年 3年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

【授業のねらい】

マーケターに必要な調査分析技法を身につけることを目的とする。ビジネス・マーケティング戦略・企業戦略などの調査分析の作業に取り組み、マーケティング調査方法やプレゼンテーションに必要な能力を養う。

【授業の展開計画】

このゼミはマーケティング戦略と消費者行動・購買意思決定・市場調査の基礎知識と手法を学びます。

【次の3つの調査分析トレーニングを予定している】

(1) マーケティング・消費者行動・企業戦略の分野の中から、各自が関心のあるテーマを設定し、調査したことを発表する。

(2) 発表の内容について、ディスカッションし、論理的な思考方法、議論の進め方について学習する。

(3) グループでテーマを設定し、調査分析の作業に取り組み、マーケティング調査方法やプレゼンテーションに必要な能力を養う。

(4) その後、興味がある企業を各自で自由に選び、企業のマーケティング活動に関する情報を収集し、調査を行い、研究レポート作成に取り組みます。

(1) 卒論とは何か/ゼミ運営の方針説明

(2) 先行研究の整理 (1)

(3) 先行研究の整理 (2)

(4) 先行研究の整理 (3)

(5) 先行研究の整理 (4)

(6) マーケティング分析方法 (1)

(7) マーケティング分析方法 (2)

(8) マーケティング分析方法 (3)

(9) マーケティング分析方法 (4)

(10) 中間発表 (1)

(11) 中間発表 (2)

(12) 中間発表 (3)

(13) 中間発表 (4)

(14) テーマ内容の発表・質疑応答

(15) テーマ内容の発表・質疑応答

(16) レポートの提出

【履修上の注意事項】

- ① 個人とグループ発表の際に自分の意見とディスカッションを行うことが大前提です。
- ② 積極的に学ぶ姿勢が必要である。

【評価方法】

- ① 課題の報告内容 (50%) ・出席および受講態度 (50%) などで総合的に評価する。

【テキスト】

- ① 恩蔵直人監修 (1999年) 『コトラーのマーケティング入門 第4版』 ピアソン・エデュケーション
- ② 講義の中で、適切なテキストを指示する。

【参考文献】

- ① Paul Temporal (2006) "Asia's Star Brands," John Wiley and Sons.
- ② フィリップ・コトラー(2003) 『コトラーのマーケティングコンセプト』 恩蔵直人監訳、東洋経済新報社。

専門演習 I

担当教員 宮森 正樹

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

マーケティングおよび広告全般から沖縄社会を総合的に考察する為の基礎力を身につける。専門書の読み方、マーケティング的文章の書き方、人前でのプレゼンテーションの仕方、情報収集の方法など、演習2につながるものを学ぶ。また、各自がテキストを深く読み込んで理論を整理し、ゼミ授業の中でみんなに解説してもらう。このゼミでは、基本的に実践的活動を目指しているため、一人ひとりが実社会に飛び出して多くの人と会い、いろいろな事を学んでもらいたい。後期から始まる合同企業プロジェクトの準備もおこなう。ファミリーマートの学Pも大学を代表して参加する。実践的マーケティングを学ぶことを重視する。

【授業の展開計画】

- 1・2週目 演習の進め方オリエンテーション
- 3・4週目 担当箇所のプレゼンテーション(1)
- 5・6週目 担当箇所のプレゼンテーション(2)
- 7・8週目 担当箇所のプレゼンテーション(3)
- 9・10週目 担当箇所のプレゼンテーション(4)
- 11・12週目 担当箇所のプレゼンテーション(5)
- 13・14週目 担当箇所のプレゼンテーション(6)

【履修上の注意事項】

- (1) 出席を重視する。
- (2) 事前にテキストを読んてくること。
- (3) 提出物を〆切を過ぎて出した者は減点、あるいは点数無し。
- (4) 授業中のおしゃべりは、他の学生の迷惑となるので教室より退出してもらう。
- (5) マーケティング入門を履修した者のみ受け付ける。

【評価方法】

出席 (15%) , 発表 (20%) , レポート (20%) , 論文 (40%) , 質問回数 (5%) 等で総合的に評価する。

【テキスト】

テキストは最初の授業で指定します。

【参考文献】

- ①現代マーケティングの構図：嵯峨野書院
- ②コトラーのマーケティング思考法：東洋経済

専門演習 I

担当教員 鶴池 幸雄

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

選択したテキストから、財務諸表の重要性を認識し、それを利用することについての基礎学習を行った後、具体例について研究報告を行うことにより、応用力を養う。

【授業の展開計画】

選択したテキストから、ゼミ生にレジュメを作成し発表してもらい、それを討論する形で進める。
企業会計全体についての理解を深めるために財務会計の文献を中心に学習する。
同時に、資金繰りについて、パソコンを使った講義を行い、基礎的考察から、事例研究までを行い、応用事例について、報告を行わせる

【履修上の注意事項】

2年次までの会計科目を履修済みであること
3年次開講の「財務会計 I」を受講すること

【評価方法】

授業への参加姿勢、レポート等を総合的に評価する。

【テキスト】

講義時に指示する

【参考文献】

専門演習 I

担当教員 佐久本 朝一

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

経営学に関するテーマを選択してもらい、各自で発表してもらい、その内容を評価する。

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

議論に参加することが重要なので、出席を毎回確認する。

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

能力主義管理の国際比較 佐久本朝一

専門演習 I

担当教員 河田 賢一

対象学年 3年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

【授業のねらい】

当演習では4年次の卒業論文執筆に向けての流通に関する知識取得のために専門書の輪読をおこないます。専門書の輪読を通して「読む力」を取得し、レジュメ作成・報告による「書く力」と「話す力」の取得、討論による「話す力」と「聴く力」の取得を目指します。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	報告・討論
3	報告・討論
4	報告・討論
5	報告・討論
6	報告・討論
7	報告・討論
8	報告・討論
9	報告・討論
10	報告・討論
11	報告・討論
12	報告・討論
13	報告・討論
14	報告・討論
15	報告・討論
16	演習のまとめ

【履修上の注意事項】

演習であるため、毎回、積極的な発言を求めます。討論における司会は学生自身におこなってもらいます。学内規則を守らない場合には、即座に単位『不可』となります。卒業論文執筆時に企業の決算情報を分析する必要があるため、『財務会計 I』を必ず履修すること。

【評価方法】

出席点・受講態度（45%）、報告・司会（45%）、ゼミ行事への参加（10%）

【テキスト】

石原武政・竹村正明編（2008）『1からの流通論』碩学舎

【参考文献】

専門演習Ⅱ

担当教員 佐久本 朝一

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

大学での研究の方法論を学ぶ

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

毎回の各自の発表で評価するので、発表の内容が一定の基準に達しない学生には再度、発表してもらうことになる。

【テキスト】

【参考文献】

能力主義管理の国際比較 佐久本

専門演習Ⅱ

担当教員 鶴池 幸雄

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

選択したテキストから、財務諸表の重要性を認識し、それを利用することについての基礎学習を行った後、具体例について研究報告を行うことにより、応用力を養う。

【授業の展開計画】

選択したテキストから、ゼミ生にレジュメを作成し発表してもらい、それを討論する形で進める。企業会計全体についての理解を深めるために財務会計の文献だけでなく、基本的な管理会計の分野についても学習する。同時に、経営分析について、パソコンを使った講義を行い、基礎的考察から、事例研究までを行い、応用事例について、報告を行わせる。

【履修上の注意事項】

財務会計Ⅱ、資金会計を受講すること

【評価方法】

授業への参加姿勢、レポート等を総合的に評価する。

【テキスト】

講義時に指示する

【参考文献】

専門演習Ⅱ

担当教員 河田 賢一

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

当演習では4年次の卒業論文執筆に向けての流通に関する知識取得のために専門書の輪読をおこないます。専門書の輪読を通して「読む力」を取得し、レジュメ作成・報告による「書く力」と「話す力」の取得、討論による「話す力」と「聴く力」の取得を目指します。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	報告・討論
3	報告・討論
4	報告・討論
5	報告・討論
6	報告・討論
7	報告・討論
8	報告・討論
9	報告・討論
10	報告・討論
11	報告・討論
12	報告・討論
13	報告・討論
14	報告・討論
15	報告・討論
16	演習のまとめ

【履修上の注意事項】

演習であるため、毎回、積極的な発言を求めます。討論における司会は学生自身におこなってもらいます。学内規則を守らない場合には、即座に単位『不可』となります。

【評価方法】

出席点・受講態度（45%）、報告・司会（45%）、ゼミ行事への参加（10%）

【テキスト】

話し合いにより決定します。

【参考文献】

専門演習Ⅱ

担当教員 清村 英之

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
専門演習Ⅰに同じ。

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

専門演習Ⅱ

担当教員 天野 敦央

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

年間テーマを、「経営管理論」とする。

本演習は3年次前期科目 2.00単位、3年次後期科目2.00単位、合計4.00単位からなっている。経営学の基本的概念を性格に理解するために、毎回テーマを決めて討論する。このほかに、各自がそれぞれ好きなテーマ（経営学の諸分野の中から）と好きな地域を決めて、その地域の経営の実状についてくわしく調べる。なお本演習イベント（合宿・学園祭・コンパ）への、ゼミ生諸君の積極的な関与を期待する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	経営組織
2	経営組織
3	労務管理
4	卒業年次ゼミテーマ登録カード提出
5	財務管理
6	財務管理
7	販売管理
8	販売管理
9	計画と統制
10	（就職課進路面接）
11	いわゆる「日本的経営」
12	後期末：ゼミ年報記事の提出締切り
13	企業の社会的責任
14	新ゼミ生募集計画
15	予備日
16	

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

専門演習Ⅱ

担当教員 宮森 正樹

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

マーケティング及び広告全般から沖縄社会を総合的に考察する。県内市場をターゲットにして、プロジェクトの実施を行い、勉学の深化と共に、社会との関わりを学ぶ。プロジェクトテーマの選択は各自、あるいは各グループに任せる。テーマの例(一昨年度)として、粟国島に飛行機を飛ばしている第一航空といかに乗客を増やすかの戦略を一緒に作ったり、美ら花という化粧品メーカーと新製品開発をしたり、沖縄市ミュージックタウンでの米国人と沖縄の人の結婚式をプロデュースしたり、琉球コラソンというハンドボールチームの試合に多くの観客を呼ぶ為の広報戦略をつくったり、ファミリーマートの学Pで弁当をプロデュースしたりした。

【授業の展開計画】

- 1・2 週目 論文の中間発表(1)
- 3・4 週目 論文の中間発表(2)
- 5・6 週目 合同プロジェクト進行(1)
- 7・8 週目 合同プロジェクト進行(2)
- 9・10 週目 合同プロジェクト進行(3)
- 11・12週目 担当箇所のプレゼンテーション
- 13・14週目 最終論文発表

【履修上の注意事項】

- (1) 出席を重視する。
- (2) 事前にテキストを読んてくること。
- (3) 提出物を〆切を過ぎて出した者は減点、あるいは点数無し。
- (4) 授業中のおしゃべりは、他の学生の迷惑となるので教室より退出してもらおう。
- (5) マーケティング入門を履修した者のみ受け付ける。

【評価方法】

出席(15%)、発表(20%)、レポート(20%)、論文(40%)、質問回数(5%)等で総合的に評価する。

【テキスト】

前期に指定したものをを用いる。

【参考文献】

- ①現代マーケティングの構図：嵯峨野書院
- ②コトラーのマーケティング思考法：東洋経済

専門演習Ⅱ

担当教員 岩橋 建治

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

人的資源管理を中心とした、経営学に関する個々の卒業論文について、中間報告を行う。報告と討論をもとに内容を修正し、具体的な方向性を決めていく。

研究を通じて、自分自身が何を望んでいるのか（自己分析）、その研究を深めることで誰にどのような貢献ができるのか（社会における役割）を、納得のいくまで考えて欲しい。

【授業の展開計画】

卒業論文の中間報告と討論を毎回行い、そのつど今後の課題（イシュー、文献、事例など）を提示する。参考として、12年度受講生が扱ったテーマは以下のとおり。

リーダーシップ、モチベーション、インセンティブ・システム、人材育成、企業者史、経営戦略、ベンチャー企業、マーケティング、飲食業、カフェ、アパレル産業、ファストファッション、HIPHOP関連事業、など

【履修上の注意事項】

積極的な発言を求める。

【評価方法】

出席、演習への貢献度、および課題の完成度などにより総合的に評価する。

【テキスト】

なし。

【参考文献】

適宜紹介する。

専門演習Ⅱ

担当教員 原田 優也

対象学年 3年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

【授業のねらい】

卒業論文の作成に向けて、ケース・スタディーの分析方法・論文の書き方・情報収集・仮説設定の考え方・卒業論文の構成などを学習すること。

【授業の展開計画】

このゼミは前期で学習した調査方法を活用し、2つのゼミ活動を行う。

【A: ケース分析】

1) ケース・スタディー（事例研究）の分析： グループ（3～5人）に分かれ、ケース分析を行う。実際に会社が直面する問題について聴き取り調査したことについて、マーケティングの観点から分析します。

【B: 卒業論文・卒業プロジェクトの選定】

4年次に向けて、卒業論文の研究テーマを選定し、卒業論文の計画書（先行研究調査・仮説設定など）を作成する。卒業論文テーマに応じて、個人またグループ（3人まで）で作成することが可能です。

- (1) 卒論とは何か/ゼミ運営の方針説明
- (2) 論文作成作業プロセス（レジユメの作成方法・書き方・引用・著作権・発表方法など）
- (3) 先行研究の整理（1）
- (4) 先行研究の整理（2）
- (5) 先行研究の整理（3）
- (6) 卒業論文・卒業プロジェクト計画書：個別指導（1）
- (7) 卒業論文・卒業プロジェクト計画書：個別指導（2）
- (8) 卒業論文・卒業プロジェクト計画書：個別指導（3）
- (9) 卒業論文・卒業プロジェクト計画書：個別指導（4）
- (10) 中間発表（1）
- (11) 中間発表（2）
- (12) 中間発表（3）
- (13) 卒業論文・卒業プロジェクト計画書の作成（1）
- (14) 卒業論文・卒業プロジェクト計画書の作成（2）
- (15) 卒業論文・卒業プロジェクト計画書の作成（3）
- (16) 研究計画書の提出

【履修上の注意事項】

- ① 個人とグループ発表の際に自分の意見とディスカッションを行うことが大前提です。
- ② 積極的に学ぶ姿勢が必要である。

【評価方法】

- ① 課題の報告内容（50%）・出席および受講態度（50%）などで総合的に評価する。

【テキスト】

- ① 恩蔵直人監修（1999年）『コトラーのマーケティング入門 第4版』ピアソン・エデュケーション
- ② 講義の中で、適切なテキストを指示する。

【参考文献】

- ① Paul Temporal（2006）"Asia's Star Brands," John Wiley and Sons.
- ② フィリップ・コトラー（2003）『コトラーのマーケティングコンセプト』恩蔵直人監訳、東洋経済新報社。

戦略管理会計

担当教員 木村 眞実

対象学年 3年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

本授業は、これまで原価計算・工業簿記を学んできた方を対象として、これまでの知識を企業実務とリンクさせることを目的としています。原価計算・工業簿記で学習した時に「公式法変動予算では、なぜ、操業度差異と予算差異を計算するの?」と思いませんでしたか?本授業では、その意味を、実務から考えていきます。

【授業の展開計画】

業績管理会計と戦略管理会計を通じて、経営管理に有用な会計情報の提供を目的とする会計(管理会計)を学習します。テキストを中心として授業を進めたいと思います。テキストは、見た目が分厚いため難解に思われるかもしれませんが、内容は会話形式で進んでいきますので、ご安心ください。毎回の授業では、「講義メモ」と題して、授業で理解したこと・興味深かったことを、簡単に「講義メモ」へ記入して頂きます。この「講義メモ」を時々提出して頂き、受講生の関心を把握したいと思います。

週	授 業 の 内 容
1	第15章 突撃!セグメント別の直接原価計算
2	第16章 セグメントに事業部別を採用した場合
3	第17章 原価企画と活動基準原価計算(ABC)
4	第18章 果てしなき時空の旅が始まる
5	第19章 差額収支分析の考え方さえわかれば大丈夫
6	第20章 戦術会計の面白さを知ってほしい
7	第21章 経済的発注数量を知らないでコストダウンができるか
8	第22章 ここからが戦略会計の本番です
9	第23章 戦略会計は時空の旅人
10	第24章 戦略会計の舞台裏~資本コストと法人税~
11	第25章 いざ戦略会計の世界へ飛び出すぞ
12	第26章 戦略会計のホップ&ステップ
13	第27章 戦略会計へ大きくジャンプするんだ
14	第28章 企業買収(M&A)や不動産投資とは、なんともデカイ話だ
15	これまでの復習
16	

【履修上の注意事項】

基礎知識:原価計算Ⅰ・Ⅱまたは工業簿記Ⅰ・Ⅱの履修者、または日商簿記検定試験2級レベルの知識が必要です。たとえば、「直接原価計算における貢献利益」が分かりますか?講義計画:受講生の理解度を見ながら、講義の内容を立てていきますので、多少、授業計画から変更する可能性があることをご了承ください。持ち物:テキスト(無いと授業が楽しくありません)、電卓(12桁以上)。※本授業の履修を決めた方は、第1回の授業に間に合うように、テキストを早く入手して下さい。

【評価方法】

講義中の議論への参加姿勢50%、定期試験50%

【テキスト】

高田直芳『決定版 ほんとうにわかる管理会計&戦略会計』PHPエディターズグループ、3,780円

【参考文献】

- ・谷武幸『エッセンシャル管理会計 第2版』中央経済社、2,940円
- ・滝澤ななみ『簿記の教科書日商2級 工業簿記』TAC出版、945円

セールス・プロモーション

担当教員 野原 寿加子

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

セールス・プロモーションの基本的な考え方、しくみ、計画や実施のノウハウを習得する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション
2	広告とプロモーションの違い
3	顧客の「行動」①
4	顧客の「行動」②
5	効果的なプロモーション①
6	効果的なプロモーション②
7	効果的なプロモーション③
8	購買に関する意思決定のメカニズム①
9	購買に関する意思決定のメカニズム②
10	豆テスト
11	様々なセールス・プロモーション①
12	様々なセールス・プロモーション②
13	様々なセールス・プロモーション③
14	プロモーションの計画と実施
15	プロモーションの評価
16	試験

【履修上の注意事項】

積極的に学ぶ姿勢を重視する。

【評価方法】

試験、豆テスト、課題、出席および授業態度などを総合的に評価する。

【テキスト】

渡辺隆之・守口剛 「セールス・プロモーションの実際」 日本経済新聞出版社

【参考文献】

必要に応じて講義中に紹介。

税法

担当教員 大城 建夫

対象学年 3年

単位区分 選択

準備事項

備考 会計コース

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

本講義では、税法の基礎的内容を修得させることを目標とする。税法の領域は、所得税法、法人税法、相続税法、消費税法など広範囲に及ぶ。この講義では、法人税法を中心にとりあげる。法人税を算出するための課税所得計算の特色は、企業会計の利益計算から誘導されるところにある。そのため、商業簿記、会計学等で学んだことを比較しながら講義を進めていく。

【授業の展開計画】

1. 税制と税法の基礎概念
2. 個別税法の体系と税法の基本原則
3. 所得税法の課税所得計算の構造
4. 法人税法の課税所得計算の構造
5. 益金の意義と範囲 (1)
6. 益金の意義と範囲 (2)
7. 損金の意義と範囲 (1)
8. 損金の意義と範囲 (2)
9. 益金と損金のまとめ
10. 役員給与と損金 (1)
11. 役員給与と損金 (2)
12. 交際費と損金 (1)
13. 交際費と損金 (2)
14. その他の販管費と損金 (1)
15. その他の販管費と損金 (2)
16. 期末テスト

【履修上の注意事項】

税法では、法人税法の基礎理論の講義を中心に行う。簿記、会計学の学習は、この講義を具体的に理解するためにも重要である。そのため、税法を受講するには、商業簿記Ⅰ、Ⅱ、会計学Ⅰ、Ⅱを履修していることが望ましい。

【評価方法】

成績評価の方法は、出席状況、中間テスト、期末試験などの内容を総合して判断する。

【テキスト】

未定

【参考文献】

佐藤正勝『租税法』同文館出版、鈴木基史『やさしい法人税』税務経理協会、井上徹二『租税法と税制』創成社

税務会計

担当教員 大城 建夫

対象学年 3年

単位区分 選択

準備事項

備考 会計コース

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

本講義では、税務会計の基礎的、全般的内容を修得させることを目標とする。特に、法人税法の課税所得計算と企業会計（財務会計）の利益計算との関わりを中心にわかりやすく講義する。

【授業の展開計画】

1. 税務会計の意義と役割
2. 課税所得計算の意義
3. 収益と益金、費用と損金
4. 販管費と寄付金
5. 販管費と貸倒損失
6. 棚卸資産と損金（1）
7. 棚卸資産と損金（2）
8. 有価証券と損金
9. 固定資産と損金（1）
10. 固定資産と損金（2）
11. 固定資産と損金（3）
12. 繰延資産と損金
13. 貸倒引当金と損金（1）
14. 貸倒引当金と損金（2）
15. 税額計算と納税申告
16. 期末テスト

【履修上の注意事項】

税務会計の講義では、法人税法と会計理論の比較検討を行う。そのため、税務会計を受講するには、商業簿記Ⅰ、Ⅱ、会計学Ⅰ、Ⅱ、税法を履修していることが望ましい。簿記検定の取得なども積極的に行ってほしい。

【評価方法】

成績評価の方法は、出席状況、中間テスト、期末試験などの内容を総合して判断する。

【テキスト】

未定

【参考文献】

大城建夫『税務会計の理論的展開』同文館出版、鈴木基史『やさしい法人税』税務経理協会、成道秀雄編著『税務会計論』中央経済社

卒業論文演習 I

担当教員 大城 建夫

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

卒業論文演習 I（4年次）では、専門演習 I、II（3年次）を基礎にして会計学の領域の中から、各ゼミ生が関心のあるテーマを選定し、文献等の収集、レジメの作成、発表（プレゼンテーション）し、討論を行う。社会人としての「読み、書き、話す」ことの総合的能力を身につけるための成果として卒業論文を完成させて欲しい。論文をまとめていくことは、大変な労力も要するが、就職活動と並行させて計画的に進めて思い出の作品として仕上げて欲しい。

【授業の展開計画】

テーマの選定は、各ゼミ生自由に興味ある会計分野について相談しながら決めていくことにする。又、論文をまとめる過程においては、各ゼミ生と章ごとに相談しながら書いてもらうので、出席はきちんとしてもらいたい。

ゼミは、次の順序で進めていきたいと思えます。

1. ゼミの進め方（第1週）
2. 文献収集とテーマの決定（第2～第3週）
3. テーマの概要と目次の決定（第4～第5週）
4. テーマと概要の発表（第6週～第7週）
5. 本文の各章のまとめと添削指導（第8から第15週）
6. 社会人講師の講話（第16週）

【履修上の注意事項】

A4用紙（40字×30行）で11～13枚を卒業論文として作成し、発表を行う。又、簿記検定等についても積極的に受験すること。

【評価方法】

成績評価は、卒業論文の概要と発表、簿記検定の合格、出席状況、ゼミにおける質疑態度などを参考にして総合的に評価する。

【テキスト】

【参考文献】

広瀬義州『財務会計』中央経済社、桜井久勝『財務会計講義』中央経済社、成道秀雄編著『税務会計論』、大城建夫『税務会計の理論的展開』同文館出版など

卒業論文演習 I

担当教員 宮森 正樹

対象学年 4年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

【授業のねらい】

マーケティング及び広告全般から沖縄社会を総合的に考察する為の応用力を身につける。専門書の読み方，マーケティング的文章の書き方，人前に出たプレゼンテーションの仕方，情報収集の方法など，卒業論文2につながるものを学ぶ。また，各自がテキストを深く読み込んで理論を整理し，論文の理論的援用を方法を学ぶ。本ゼミでは基本的に実践的活動を目指しているので，論文の情報収集として，一人ひとりが実社会に飛び出して多くの人と会い，理論と実践の統合を目指す。前期は他大学の学生や院生が書いた論文を読み込み，その分析と批評を行う。

【授業の展開計画】

- 1・2週目 演習の進め方オリエンテーション
- 3・4週目 論文分析(1)
- 5・6週目 論文分析(2)
- 7・8週目 論文分析(3)
- 9・10週目 論文分析(4)
- 11・12週目 論文分析(5)
- 13・14週目 論文分析(6)

【履修上の注意事項】

- (1) 出席を重視する。
- (2) 事前にテキストを読んてくること。
- (3) 提出物を〆切を過ぎて出した者は減点，あるいは点数無し。
- (4) 授業中のおしゃべりは，他の学生の迷惑となるので教室より退出してもらおう。
- (5) マーケティング入門を履修した者のみ受け付ける。

【評価方法】

出席 (15%) ， 発表 (10%) ， レポート (10%) ， 論文 (60%) ， 質問回数 (5%) 等で総合的に評価する。

【テキスト】

プリントを配布する

【参考文献】

- ①現代マーケティングの構図：嵯峨野書院
- ②コトラーのマーケティング思考法：東洋経済

卒業論文演習 I

担当教員 天野 敦央

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

- | 回 | 内容 | 回 | 内容 |
|----|----------------|---|----|
| 1 | 演習のすすめ方、評価のしかた | | |
| 2 | 研究対象 (1) | | |
| 3 | 研究対象 (2) | | |
| 4 | アメリカ経営学 | | |
| 5 | アメリカ経営学 (2) | | |
| 6 | ドイツ経営学 (1) | | |
| 7 | ドイツ経営学 (2) | | |
| 8 | 企業論 (1) | | |
| 9 | 企業論 (2) | | |
| 10 | 経営管理 (1) | | |
| 11 | 経営管理 (2) | | |
| 12 | 意思決定 (1) | | |
| 13 | 意思決定 (2) | | |
| 14 | 経営戦略 (1) | | |
| 15 | 経営戦略 (2) | | |

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

卒業論文演習 I

担当教員 佐久本 朝一

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

比較経営の視点からビジネスの事象について検討し、論文指導を行う。

【授業の展開計画】

前期は資料を収集しながら、論文作成の準備を進める。

後期は企業研究と特許しうる商品開発を目指す。

【履修上の注意事項】

【評価方法】

ゼミへの貢献、提出課題により評価を行なう。

【テキスト】

【参考文献】

卒業論文演習 I

担当教員 原田 優也

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

①卒業論文・卒業プロジェクトレポートの作成に向けて、書き方・情報収集・仮説設定の考え方・論文の構成などを学習すること。

②マーケティング的な考え方を実践的に養い、沖縄から全国、世界のビジネス界で活躍できる人材を育てます。

【授業の展開計画】

履修生は(1) 卒業プロジェクトと(2) 卒業論文のどちらか一つ選択し、一年間かけて取り組みます。
(注意：研究テーマが決定したら、個人か少人数のグループ・プロジェクトですすめるかを決定してもらう。)

1) 卒業論文：興味があるテーマについて文献調査し、テーマを絞り込んでから対象とする問題点などについて客観的に分析し、卒業論文を執筆する。

2) 卒業プロジェクト：「実用可能性の高い新商品開発」についてアイデアを出し、マーケティング・プランを作成する。新商品の開発段階・背景・生産工程、競合他社のリサーチ、新商品に対する消費者の購買行動について調査・分析を行う作業を通して、マーケットに必要な知識や技能を習得します。

- (1) 卒業論文・卒業プロジェクトとは何か / ゼミ運営の方針説明
- (2) 研究計画書・レジュメの作成方法・著作権・発表方法・参考文献・引用方法の確認
- (3) 論文テーマの選定 (先行研究、分析方法、仮説設定など)
- (4) 卒論テーマ・プロジェクトテーマの確定/年間計画書の提出
- (5) 先行研究の整理 (1)
- (6) 先行研究の整理 (2)
- (7) 先行研究の整理 (3)
- (8) 仮説設定と分析方法 (1)
- (9) 仮説設定と分析方法 (2)
- (10) 卒業論文・卒業プロジェクト執筆：個別指導①
- (11) 卒業論文・卒業プロジェクト執筆：個別指導②
- (12) 卒業論文・卒業プロジェクト執筆：個別指導③
- (13) 卒論・卒プロジェクト内容の発表及び討論 (1)
- (14) 卒論・卒プロジェクト内容の発表及び討論 (2)
- (15) 卒論・卒プロジェクト内容の発表及び討論 (3)
- (16) 卒業論文・卒業プロジェクトの中間レポートの提出

【履修上の注意事項】

- ①個人とグループ発表の時、自分の意見とディスカッションを行うことが大前提です。
- ②ゼミ生は必ず7月中旬の発表会に参加しなければなりません。
- ③授業に参加し、積極的に学ぶ姿勢 (パティシペーションなど) が必要である。

【評価方法】

発表内容 (50%) ・出席および受講態度 (50%) などで総合的に評価する。

【テキスト】

講義の中で、適切なテキストを指示する。

【参考文献】

必要に応じて講義中に紹介します。

卒業論文演習 I

担当教員 岩橋 建治

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

卒業論文執筆のための指導を行う。研究を通じて、自分自身が何を望んでいるのか（自己分析）、その研究を深めることで誰にどのような貢献ができるのか（社会における役割）を、納得のいくまで考えて欲しい。

【授業の展開計画】

卒業論文の研究に関しては、授業時間中だけでは指導が不十分なため、授業時間以外も適宜連絡の上で、毎週課外の指導をおこなうことを前提とする。

それぞれの研究の進捗状況に応じて、適宜指示を与える。

【履修上の注意事項】

卒業論文の分量は16,000字～20,000字程度を目安とする。

【評価方法】

卒業論文に関する課題の提出状況と、その完成度を中心に評価する。

【テキスト】

なし。

【参考文献】

適宜紹介する。

卒業論文演習 I

担当教員 河田 賢一

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

卒業論文を執筆するための下準備として、ゼミ生が興味を持っている分野の専門書を輪読する。それを通じて卒業論文テーマを決定する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	報告・討論
3	報告・討論
4	報告・討論
5	報告・討論
6	報告・討論
7	報告・討論
8	報告・討論
9	報告・討論
10	報告・討論
11	報告・討論
12	報告・討論
13	報告・討論
14	報告・討論
15	報告・討論
16	演習のまとめ

【履修上の注意事項】

就職活動等で欠席する場合には、レポートの提出を求めます。
卒業論文執筆時に企業の決算情報を分析する必要があるため、『財務会計 I』を必ず履修すること。

【評価方法】

出席点・受講態度（45%）、報告（45%）、ゼミ行事への参加（10%）

【テキスト】

【参考文献】

卒業論文演習 I

担当教員 清村 英之

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

この演習では、「使える会計知識」「役に立つ会計技法」を身につけることを目指して、会計が現代の経済社会の中でどういう役割を果たしているのか、また、会計の知識を得ることで何ができるのかを学びます。この一年間は、各自が選択した企業の分析を進め、卒業論文をまとめます。

【授業の展開計画】

各自、分析対象企業を選択し、①それぞれの企業の社史、事業内容、経営方針などを調べ、分析対象企業に関する理解を深めます。②インターネット等を利用して入手した会計情報を、様々な手法を用いて分析し、その結果を発表します。③この一年間の研究成果を卒業論文としてまとめるとともに、セミナーハウスで発表会を行います。

【履修上の注意事項】

「専門演習Ⅱ」を履修済みの学生しか登録できません。

【評価方法】

出席や発表などで、総合的に評価します。

【テキスト】

使用しません。

【参考文献】

必要に応じ、講義中に紹介します。

卒業論文演習 I

担当教員 鶴池 幸雄

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

企業会計に係わりこれまで学習してきた内容を深めるとともに、一つのテーマについてこれをまとめる。

【授業の展開計画】

1. 卒業論文の作成
テーマの決定
文献調査
論文構成の決定
執筆
を、講義内で指導していく
2. 会計のトピックについて
研究・発表を行う。

【履修上の注意事項】

【評価方法】

課題の提出、講義内での発表などにより評価します。

【テキスト】

講義内で指示します

【参考文献】

卒業論文演習Ⅱ

担当教員 佐久本 朝一

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

比較経営学に関する専門的な領域について論文指導を行う

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

卒業論文演習Ⅱ

担当教員 鶴池 幸雄

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

企業会計に係わり、これまで学習してきた内容を深めるとともに、一つのテーマについてこれをまとめる

【授業の展開計画】

1. 卒業論文の作成
文献調査
論文構成の決定
執筆

後半の講義内で、卒論の報告を行う

2. 会計のトピックについて

最新の会計基準動向などについて
研究・報告を行う

【履修上の注意事項】

【評価方法】

課題の提出、講義内での発表などによります。

【テキスト】

講義内で指示します。

【参考文献】

卒業論文演習Ⅱ

担当教員 清村 英之

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

卒業論文演習Ⅰに同じ。

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

卒業論文演習Ⅱ

担当教員 岩橋 建治

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

卒業論文執筆のための指導を行う。研究を通じて、自分自身が何を望んでいるのか（自己分析）、その研究を深めることで誰にどのような貢献ができるのか（社会における役割）を、納得のいくまで考えて欲しい。

【授業の展開計画】

卒業論文の研究に関しては、授業時間中だけでは指導が不十分なため、授業時間以外も適宜連絡の上で、毎週課外の指導をおこなうことを前提とする。

それぞれの研究の進捗状況に応じて、適宜指示を与える。

【履修上の注意事項】

卒業論文の分量は16,000字～20,000字程度を目安とする。

【評価方法】

卒業論文の完成度を中心に評価する。

【テキスト】

なし。

【参考文献】

適宜紹介する。

卒業論文演習Ⅱ

担当教員 原田 優也

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

- ①卒業論文・卒業プロジェクトレポートの作成に向けて、書き方・情報収集・仮説設定の考え方・論文の構成などを学習すること。
- ②マーケティング的な考え方を実践的に養い、沖縄から全国、世界のビジネス界で活躍できる人材を育てます。

【授業の展開計画】

- (1) 後期日程のガイダンス
- (2) 卒業論文・卒業プロジェクトの研究手法・先行研究・仮説設定などの再検討①
- (3) 卒業論文・卒業プロジェクトの研究手法・先行研究・仮説設定などの再検討②
- (4) 卒業論文・卒業プロジェクトの研究手法・先行研究・仮説設定などの再検討③
- (5) 卒業論文・卒業プロジェクト執筆：個別指導①
- (6) 卒業論文・卒業プロジェクト執筆：個別指導②
- (7) 卒業論文・卒業プロジェクト執筆：個別指導③
- (8) 卒業論文・卒業プロジェクト執筆：個別指導④
- (9) 卒業論文・卒業プロジェクト執筆：個別指導⑤
- (10) 卒業論文・卒業プロジェクト執筆：個別指導⑥
- (11) 卒業論文・卒業プロジェクト執筆：個別指導⑦
- (12) 卒業論文・卒業プロジェクト執筆：個別指導⑧
- (13) 卒論・卒プロジェクトの原稿の校正①
- (14) 卒論・卒プロジェクトの原稿の校正②
- (15) 卒論・卒プロジェクトの原稿の印刷
- (16) 卒業論文・卒業プロジェクトの提出

注意：履修生は：(1)卒業プロジェクト と (2)卒業論文のどちらか一つ選択し、一年間かけて取り組みます。
(注意：研究テーマが決定したら、個人か少人数のグループ・プロジェクトですすめるかを決定してもらう。)

【履修上の注意事項】

- ①個人とグループ発表の時、自分の意見とディスカッションを行うことが大前提です。
- ②授業に参加し、積極的に学ぶ姿勢（パティシペーションなど）が必要である。

【評価方法】

発表内容（50%）・出席および受講態度（50%）などで総合的に評価する

【テキスト】

講義の中で、適切なテキストを指示する。

【参考文献】

必要に応じて講義中に紹介します。

卒業論文演習Ⅱ

担当教員 河田 賢一

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

卒業論文提出に向けて、卒業論文指導をおこなう。毎回、数名に卒論の途中経過を報告してもらい、討論していく。最終的に卒業論文を提出することが目的である。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	卒論の書き方
2	報告・討論
3	報告・討論
4	報告・討論
5	報告・討論
6	報告・討論
7	報告・討論
8	報告・討論
9	報告・討論
10	報告・討論
11	報告・討論
12	報告・討論
13	報告・討論
14	報告・討論
15	報告・討論
16	演習のまとめ

【履修上の注意事項】

12月中旬に一度、卒業論文を提出してもらい、15回目に最終提出となります。

本演習（卒業論文演習Ⅱ）は、サブ演習を含めて毎週2校時連続（90分×2）で実施します。サブ演習は本演習の直後の校時に実施します。

卒論を提出するとともに内容もしっかりしたものでないと単位取得できません。

【評価方法】

出席点・受講態度（30%）、報告（30%）、卒論内容（40%）

【テキスト】

【参考文献】

卒業論文演習Ⅱ

担当教員 天野 敦央

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

年間テーマを、「経営管理論」とする。

【授業の展開計画】

- | 回 | 内容 |
|----|-----------------|
| 16 | 経営組織 (1) |
| 17 | 経営組織 (2) |
| 18 | 労務管理 (1) |
| 19 | 労務管理 (2) |
| 20 | 財務管理 (1) |
| 21 | レポート執筆開始 |
| 22 | 販売管理 (1) |
| 23 | 後期末：レポート提出締切り |
| 24 | 計画と統制 (1) |
| 25 | 計画と統制 (2) |
| 26 | いわゆる「日本的経営」 (1) |
| 27 | いわゆる「日本的経営」 (2) |
| 28 | 企業の社会的責任 (1) |
| 29 | 企業の社会的責任 (2) |
| 30 | 予備日 |

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

卒業論文演習Ⅱ

担当教員 宮森 正樹

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

マーケティング及び広告全般から沖縄社会を総合的に考察する為の応用力を身につける。専門書の読み方，マーケティング的文章の書き方，人前に出たプレゼンテーションの仕方，情報収集の方法など，卒業論文作成につながるものを学ぶ。また，各自がテキストを深く読み込んで理論を整理し，論文の理論的援用の方法を学ぶ。本ゼミでは基本的に実践的活動を目指しているため，論文の情報収集として，一人ひとりが実社会に飛び出して多くの人と会い，理論と実践の統合を目指す。卒業論文作成に集中する。

【授業の展開計画】

- 1・2週目 論文執筆指導(1)
- 3・4週目 論文執筆指導(2)
- 5・6週目 論文執筆指導(3)
- 7・8週目 論文執筆指導(4)
- 9・10週目 論文執筆指導(5)
- 11・12週目 論文執筆指導(6)
- 13・14週目 論文発表

【履修上の注意事項】

- (1) 出席を重視する。
- (2) 事前にテキストを読んてくること。
- (3) 提出物を〆切を過ぎて出した者は減点，あるいは点数無し。
- (4) 授業中のおしゃべりは，他の学生の迷惑となるので教室より退出してもらおう。
- (5) マーケティング入門を履修した者のみ受け付ける。

【評価方法】

出席(15%)，発表(10%)，レポート(10%)，論文(60%)，質問回数(5%)等で総合的に評価する。

【テキスト】

プリントを配布する

【参考文献】

- ①現代マーケティングの構図：嵯峨野書院
- ②コトラーのマーケティング思考法：東洋経済

卒業論文演習Ⅱ

担当教員 大城 建夫

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

卒業論文演習Ⅱでは、前期の卒業論文演習Ⅰに引き続き、各ゼミ生の卒業論文テーマの本文等について、レジメ作成、発表を行い、添削指導を行う。12月末までには完成させるように各自目標を持ってもらいたい。

【授業の展開計画】

ゼミの進め方は、次のとおりです。

1. テーマ、本文、引用文献の順序で一貫するようにまとめて下さい。
2. 本文の各章のまとめと発表（第1～第11週）
3. 添削指導（第1～第11週）
4. 本文の引用と引用文献の確認（第12～第14週）
5. 編集作業と製本（第15～第16週）

【履修上の注意事項】

A4用紙（40字×30行）で11～13枚を卒業論文として作成し、発表を行う。このほか、簿記検定等の資格取得についても積極的に行うようにして下さい。

【評価方法】

成績評価は、卒業論文の発表、簿記検定等の合格、出席状況、ゼミへの質疑態度などを参考にして総合的に評価する。

【テキスト】

【参考文献】

河崎・佐藤他『財務会計論Ⅰ基本論点編』、『財務会計論Ⅱ応用論点編』中央経済社など

ソーシャル・マーケティング

担当教員 一親泊 元彦

対象学年 3年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

昨今、経済のグローバル化の進行に伴い、企業の社会的責任（Corporate Social Responsibility：CSR）がますます問われるようになってきた。これは、企業自身がある存在意義や価値観を改めて認識することを意味している。同時に、消費者が企業の社会性を評価して、製品やサービスを購入する動きも活発になりつつある。本講義では、企業の成功事例の紹介（ケース・スタディ）を通してその理論構築に繋げ「理論と実践の融合」を図っていく。更に、企業やNPOなどがいかに社会的課題の解決に寄与しているのかについても理解を深めていく。

【授業の展開計画】

- ☆ オリエンテーション・ガイダンス
- ☆ ソーシャル・マーケティングの定義
- ☆ 企業に社会性が求められるようになった背景
- ☆ ソーシャル・マーケティングとマーケティング・ミックスの開発
- ☆ 顧客満足から顧客感動への発展
- ☆ 成功事例の研究
- ☆ 理論と実践の融合
- ☆ 学期末試験

【履修上の注意事項】

- (1) 出席を重視する。
- (2) 受講態度を重視する。
- (3) 課題・レポート提出。

【評価方法】

出席・受講態度・学期末試験等で総合的に評価する。

【テキスト】

初回の講義で指定する。

【参考文献】

初回の講義で指定する。

中小企業経営論

担当教員 木村 眞実

対象学年 3年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

本授業では、中小企業の強み・弱みを理解することを目的としています。具体的には、中小企業の発展の軌跡、日本における中小企業政策について学び、さらに、モノづくりを行う中小工業や、商店街で商いを行う中小商業について学習をします。なお、皆さんの身近な中小企業を、事例として紹介することを予定しています。

【授業の展開計画】

テキストを中心として授業を進め、演習問題で当該授業の内容について考えたいと思います。この演習問題とは、たとえば「身近な中小企業の事例について取り上げ、そこで働いている人々の労働内容について、上記の特徴づけの視点から評価してみなさい。」というものです。また、講義の後半では「身近な中小企業を探そう!」と題して、中小企業の事例を紹介します。また、受講生には、「見つけた!身近な中小企業」と題して、レポートの作成と報告(パワーポイントによる報告)を予定しています。

週	授 業 の 内 容
1	第1章 中小企業で働くこと
2	第2章 企業の倒産と進化
3	第3章 中小企業とは何か
4	第4章 戦後日本の中小企業問題の推移
5	第5章 戦後日本の中小企業発展の軌跡
6	第6章 もの作りと中小企業
7	第7章 中小製造企業の経営
8	第8章 中小商業と流通
9	第9章 中小商業経営と商人性
10	身近な中小企業を探そう～事例紹介
11	「見つけた!身近な中小企業」の調査・報告方法を説明
12	第10章 中小企業の金融
13	第11章 戦後日本の中小企業政策の変遷
14	「見つけた!身近な中小企業」～受講生による報告
15	まとめ
16	

【履修上の注意事項】

講義計画：受講生の理解度を見ながら、講義の内容を立てていきますので、多少、授業計画から変更する可能性があることをご了承ください。持ち物：テキスト(無いと授業が楽しくありません) ※本授業の履修を決めた方は、第1回の授業に間に合うように、テキストを早く入手して下さい。その他：積極的に授業へ参加をしてください。一緒に、中小企業について学びましょう。

【評価方法】

授業の参加姿勢50%、定期試験50%

【テキスト】

渡辺・小川・黒瀬・向山『21世紀中小企業論—多様性と可能性を探る(有斐閣アルマ)』有斐閣、2,310円

【参考文献】

特にありません。

中小企業診断 I

担当教員 嘉陽 宗一郎

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

中小企業をはじめとする企業の意義、性質を理解するとともに、企業経営に役立つ財務諸表の読み方、分析の仕方を習得することをねらいとしている。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス・履修登録
2	企業・会社概説（1）～企業・会社の目的、意義～
3	企業・会社概説（2）～個人企業と会社、大企業と中小企業の違い～
4	企業・会社概説（3）～社員の責任・所有と経営の分離～
5	企業の会計（1）～会計の目的・役割・性質～
6	企業の会計（2）～中小企業の会計～
7	貸借対照表の分析（1）
8	貸借対照表の分析（2）
9	損益計算書の分析（1）
10	損益計算書の分析（2）
11	企業と資金繰り
12	中小企業と税金～所得税・法人税・消費税～
13	財務分析概説
14	安全性分析・収益性分析
15	前期まとめ
16	考査

【履修上の注意事項】

前期と後期は連動しているので、両方履修することが望ましいです。第2回～第4回の講義は会社法、第5回～第11回の講義は簿記や会計学、第11回は租税法と関連があります。これらの科目を勉強していると理解が早いと思います。ときどき電卓を使用する予定なので、準備してください。

【評価方法】

出席状況、試験等を点数化し、総合点により評価します。
不定期に出席確認を兼ねたミニテストを行いたいと考えています。これも評価の参考とします。

【テキスト】

レジュメを配布します。

【参考文献】

適宜、紹介します。

中小企業診断Ⅱ

担当教員 一銘 莉 康弘

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

中小企業の経営診断を行うにあたり必要な基礎知識の習得を行い、架空の企業事例をもとに具体的な診断を体験・学習する。中小企業診断士2次試験の合格レベルを目標とする。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス、履修登録
2	中小企業診断の進め方
3	中小企業の経営戦略
4	〃 財務診断
5	〃 販売診断
6	〃 生産診断
7	サービス業の診断事例
8	〃 診断演習
9	小売商業の診断事例
10	〃 診断演習
11	製造業の診断事例
12	〃 診断演習
13	ベンチャー企業の診断事例
14	〃 診断演習
15	まとめと試験
16	考査

【履修上の注意事項】

前期と後期は連動しているので、両方履修することが望ましい。
演習はグループによるディスカッション、発表等を行う。
全体を通じて積極的な発言を期待する。

【評価方法】

期中レポートを2回（予定）、期末試験、とくに演習中は積極的な発言に対して加点する。

【テキスト】

レジュメを配布する

【参考文献】

適宜紹介する

データベース

担当教員 佐久本 邦華

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本授業では、データベースの初歩からフォーム・クエリの活用など、もっとも利用されるデータベースの基本操作を中心に学習・習得し、最終的には簡単なデータベースの構築が出来ることを目的とする。複数のデータファイル間に共通の項目を相互に関係付け、一度の処理で多くのデータを同時に操作できる機能をもつリレーショナル型データベースソフト、Accessを使用し授業を行う。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	Accessの概要/Accessの基本操作/テーブルとは/データの検索
2	選択フィルタの利用/選択の絞り込み/フォームフィルタの利用/レコードの並べ替え/データ印刷
3	Excelデータの読み込み/レコードの追加/フィールドの追加/画像データの入力/フォーム活用
4	インポートを用いた演習
5	テーブルの操作/選択クエリを使う/テーブルの集計を行う/毎回異なる値で選択する方法を使う
6	さまざまなクエリ/クエリ作成演習
7	データベースの設計/リレーションシップの作成と確認/ルックアップ列によるリレーションシップ
8	リレーションシップされたクエリの計算/クエリの高度な活用
9	クエリの高度な活用を用いた演習
10	レポートの作成と印刷/レポート上での計算/グラフをレポート上に作成する
11	レポート作成と印刷の演習
12	総合演習/基本テーブルを作る/フォームの設計/フォーム上での計算/フォーム上のグラフ作成
13	マクロの作成と利用
14	総合演習 1 簡単なデータベースの構築
15	総合演習 2 簡単なデータベースの構築
16	試験

【履修上の注意事項】

【評価方法】

出席および最終試験で採点し、評価を行います。

【テキスト】

タイトル：30時間でマスター Access 2007
著者：実教出版編修部
発行：実教出版株式会社

【参考文献】

販売管理論

担当教員 河田 賢一

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義は基本的に販売士3級の資格取得を目指す学生向けの講義です。本学卒業生の2人に1人は販売に関連する仕事（製造業、卸売業、小売業、サービス業）に就いています。そこで本講義は本年7月および来年2月におこなわれる販売士3級の資格試験に向けた受験対策として、同資格のテキストを利用して講義をおこないます。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	小売業の種類①
3	小売業の種類②
4	小売業の種類③
5	小売業の種類④
6	マーチャンダイジング①
7	マーチャンダイジング②
8	マーチャンダイジング③
9	ストアオペレーション①
10	ストアオペレーション②
11	マーケティング①
12	マーケティング②
13	販売・経営管理①
14	販売・経営管理②
15	講義のまとめ
16	期末試験

【履修上の注意事項】

販売士資格取得を目指す学生の迷惑となるため私語は慎んでください。

講義開始時刻とともに出席カードを配布します。その時点で教室にいない場合は欠席となります。

講義時間中に限らず、開始前・終了後に教室の机に座った場合には減点となります。トイレに友人と一緒にいく必要はありません。長時間教室に戻ってこない場合には欠席扱いとなります。講義時間中にタバコを吸いに行つた場合には、即座に単位『不可』となります。

【評価方法】

期末試験（70%）、出席点・受講態度（30%）

【テキスト】

上岡史郎（2012）『1回で合格！ 販売士検定3級テキスト&問題集』成美堂出版

【参考文献】

比較経営論 I

担当教員 一井川 浩輔

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

グローバル化が進展する中で、今後日本企業はどのような経営スタイルをとるべきなのでしょうか？本講義では、このような問いに『アメリカの経営・日本の経営—グローバル・スタンダードの行方—』（伊藤健市・中川誠士・堀龍二編著，ミネルヴァ書房，2010年）を紐解きながら皆様と一緒に挑みます。今日、アメリカ流の経営スタイルがグローバル・スタンダードとして紹介されていますが、その具体的な内実について共に考えてみましょう。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	講義概要（授業の進め方や評価方法など）の説明
2	プレゼンテーション担当章の決定，資料配付，役割分担の決定
3	「アメリカモデルと日本モデル」（教員），学習課題1
4	発表資料の確認・修正・提出
5	「日本IBMの給与制度」（第1チーム），学習課題2
6	「ファイザーの人事考課」（第2チーム），学習課題3
7	「ジョンソン・アンド・ジョンソンのコンピテンシー」（第3チーム），学習課題4
8	「日本IBMの人材育成」（第4チーム），学習課題5
9	小テスト
10	「ザ・リッツ・カールトン・ホテルのキャリア開発」（第5チーム），学習課題6
11	「アフラックのワークライフバランス」（第6チーム），学習課題7
12	「P&Gジャパンのダイバーシティ・マネジメント」（第7チーム），学習課題8
13	「ファイザーのメンタルヘルスケア」（第8チーム），学習課題9
14	「グローバル化と日本モデル」（教員），学習課題10
15	小テスト
16	

【履修上の注意事項】

本講義の受講を希望される方は次のルールを必ず守って下さい。まず、チームワークを大切にしてください。チームとしてプレゼンテーションを行っていただきますが、チームのメンバーに迷惑をかけるような行為はやめてください。次に、各メンバーは個人として自律的な行動をとってください。自ら進んでプレゼンテーションの準備など作業を進めるようにしてください。最後に、提出期限を守ってください。配付資料を印刷する都合上、全チームのプレゼンテーション資料の提出日が第4回の講義になっておりますので、ご注意ください。

【評価方法】

本講義では次のように評価を行います。発表資料（10点），プレゼンテーション（50点），小テスト（10点×2回），学習課題（2点×10回），質問（+α），それぞれの得点を合計して評価を行います。提出期限を守れなかった発表資料は0点になります。また、プレゼンテーションを欠席した個人のプレゼンテーションに関する得点は0点になります。

【テキスト】

講義資料を配付しますので、テキストは特に指定しません。

【参考文献】

伊藤健市・中川誠士・堀龍二編著『アメリカの経営・日本の経営—グローバル・スタンダードの行方—』ミネルヴァ書房，2010年。

比較経営論Ⅱ

担当教員 一井川 浩輔

対象学年 3年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

ユニクロとGAPは経営の仕組みがどうして異なるのでしょうか？本講義では、このような問いに比較経営論的な視点から皆様と一緒に挑みます。比較経営論とは、異なる経営の仕組みを様々な視点から比較分析して、その類似点や相違点を明らかにする学問領域です。このような考え方は皆様の就職活動においても役に立ちます。なぜなら、業界分析や企業分析が上手いことができるかどうかは、比較分析を上手に行えるかどうかにかかっているためです。同じ業界の中に異なる経営の仕組みが存在する理由について共に考えてみましょう。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	講義概要（授業の進め方や評価方法など）の説明
2	比較経営論と人的資源管理論
3	チーム（業界）とその中での各メンバーの役割分担（企業）の決定、文献収集方法の紹介
4	文献リストと収集資料の提出（個人）、模擬プレゼンテーション（教員）
5	個人による企業分析と発表資料の提出、チームによる業界分析と発表資料の準備
6	チームによる業界分析と発表資料の提出、プレゼンテーションの準備
7	プレゼンテーション（第1チーム）、質疑応答
8	プレゼンテーション（第2チーム）、質疑応答
9	プレゼンテーション（第3チーム）、質疑応答
10	プレゼンテーション（第4チーム）、質疑応答
11	プレゼンテーション（第5チーム）、質疑応答
12	プレゼンテーション（第6チーム）、質疑応答
13	プレゼンテーション（第7チーム）、質疑応答
14	プレゼンテーション（第8チーム）、質疑応答
15	講義のまとめ
16	学期末試験

【履修上の注意事項】

本講義の受講を希望される方は次のルールを必ず守って下さい。まず、チームワークを大切にしてください。チームとしてプレゼンテーションを行っていただきますが、チームのメンバーに迷惑をかけるような行為はやめてください。次に、メンバーは個人として自律的な行動をとってください。企業の決定や情報収集を行います。自ら進んで作業を進めるようにしてください。最後に、提出期限を守ってください。文献リストー収集資料ー個人発表資料ーチーム発表資料と提出資料が連動しておりますので、ご注意ください。

【評価方法】

本講義では次のように評価を行います。個人の文献リストと収集資料（10点）、個人の発表資料（20点）、個人のプレゼンテーション（20点）、チームの発表資料（10点）、チームのプレゼンテーション（10点）、他のチームのプレゼンテーションに対する質問（1回5点×4）、学期末試験（10点）、それぞれの得点を合計して評価を行います。提出期限を守れなかった提出資料は0点になります。また、プレゼンテーションを欠席したチームや個人のプレゼンテーションに関する得点は0点になります。

【テキスト】

講義資料を配付しますので、テキストは特に指定しません。

【参考文献】

今野浩一朗（2008）『人事管理入門（第2版）（日経文庫1190）』日本経済新聞出版社。

ビジネス実務総論

担当教員 岩橋 建治

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 通年

授業形態 一般講義

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

ビジネス実務の全体像を把握するとともに、その能力を高める。前期では、実務のさまざまな場面において求められている考え方やノウハウを学びながら、ビジネス実務の全体像をつかむ。後期では、企業の採用試験などで使用されている問題の演習をつうじて、実務において必要不可欠とされている思考力、判断力などの基礎能力を高める。

【授業の展開計画】

<前期>

1. ビジネス実務とは何か
2. 目標を立てる
3. 個人業務でのPDSサイクル
4. 業務推進とコミュニケーション
5. グループ・ダイナミクス
6. 協働業務でのPDSサイクル
7. 組織とリーダーシップ
8. 集団的意思決定
- 9～10. ビジネス文書の作成
- 11～12. 対人実務
- 13～14. 雇用動向とさまざまな業種・職種の特徴
15. まとめ

<後期>

- 1～8. 計算・方程式
- 9～10. 確率・集合
- 11～12. グラフ・図表
- 13～14. 判断推理
15. まとめ

【履修上の注意事項】

通年科目のため、前期の評価点数が一定未満の場合、結果的にそこで足切りとなります。また前期で足切りされたとしても、後期で同じ曜日時限に別の科目を履修することはできませんので注意してください。

【評価方法】

出席日数を重視したうえで、前期に実施する課題・試験が50%、後期に実施する課題・試験が50%

【テキスト】

なし。

【参考文献】

適宜紹介する。

ビジネスプレゼンテーション

担当教員 佐渡山 美智子

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

ビジネスプレゼンテーションでは、「わかりやすく、効果的に、自分らしく表現すること」を基本として、「相手に伝える」ために必要なコミュニケーションを考え、伝える相手を理解することから始めます。あわせて、言葉に対する認識を高め、一言一言に責任をもって、丁寧に話すことをはじめ、伝える内容を明確にメッセージを送ることが出来るように実践していきます。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス<コミュニケーションについて>
2	音声表現の基本として ○発声練習 ○滑舌 ○母音を響かせて
3	新聞音読トレーニング ○声の使い方 ○明瞭な発音
4	コミュニケーションの基本として○クリエイティブリスニング<傾聴>
5	情報の収集・整理・選択・伝達 インタビュー<質問力>
6	プレゼンテーション=目的の明確化・ウォンツへの対応・提案=姿勢・ノウハウ
7	ディスカッション=テーマの提案
8	ディスカッション=論理的な話し方(メモの取り方)
9	ディベートの基本
10	ディベートの実践1
11	プレゼンテーション<沖縄におけるベンチャービジネスの可能性について>
12	プレゼンテーション<発表>→質問PDCAサイクルでセルフマネジメント
13	プレゼンテーション<修正・発表>
14	チームプレゼンテーション
15	総括
16	期末テスト

【履修上の注意事項】

【評価方法】

・出席状況 ・提出物(レポートなど) ・活動状況

【テキスト】

【参考文献】

プログラミング演習 A

担当教員 丸山 友希夫

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義では、ウェブサイト構築するための技術について、実際にプログラミングを行いながら習得する。まず、基礎的なWebサイトの構築方法であるHTMLについて学ぶ。次に、デザインを構成するためのCSS (Cascading Style Sheets) について学ぶ。そして、アニメーションを作成するためのFlashについて学ぶ。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	テキストエディタの使用方法, HTML言語の基本
3	文字のデザイン, カラーコード
4	リンクの設定
5	背景と罫線の設定
6	グラフィックソフトの使用方法, 画像レイアウト
7	ページ設定, 配置
8	テーブル作成
9	フォーム作成
10	Flashの基本
11	Flashによるアニメーション
12	応用テクニック
13	課題発表①
14	課題発表②
15	課題発表③
16	課題提出

【履修上の注意事項】

- ・ 共通科目の「情報処理基礎」の単位取得者を本講義の登録対象者とする
- ・ 第1回目のガイダンスを欠席した場合は、履修登録を認めない
- ・ 演習講義のため、原則として遅刻は厳禁。また、30分以上遅刻した場合は、入室を禁止する
- ・ 1/3以上欠席した場合は課題発表の資格を認めず、課題未発表の場合は単位を認めない
- ・ 毎講義の最後に確認問題を課する

【評価方法】

確認問題30点 (2点×15回) , 課題発表70点の合計100点満点において
80点以上「優」, 70~79点「良」, 60~69点「可」, 60点未満「不可」で判定する。

【テキスト】

プリントを配付する (講義前にプリントアウトする)

【参考文献】

- ・ HTML/XHTML&スタイルシートレッスンブック (ソシム社出版, エビスコム著)
- ・ インターネット上のWebページ作成ヒント集

プログラミング演習 B

担当教員 佐久本 邦華

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本授業では、情報処理システム開発の最先端である、携帯端末のソフト開発を通してシステム開発を具体的に学んでいくことを狙いとする。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	Android開発環境について (JDK, Eclipse)
2	APP Inventor開発環境について
3	ボタンの配置
4	動画再生アプリの製作、動画のダウンロードと適正ファイルの取得方法
5	レイアウト方法とGoogleマップの表示方法
6	リスト作成、リストからGoogleマップへのジャンプなどのActivityの設定方法
7	しゃべるAndroidアプリの作成 I
8	しゃべるAndroidアプリの作成 II
9	タイマー処理を使ったアプリの作成 I
10	タイマー処理を使ったアプリの作成 II (ゲームの作成 I)
11	タイマー処理を使ったアプリの作成 III (ゲーム感覚のアラーム時計の作成)
12	シューティングゲームアプリの作成 I (スプライトの利用)
13	シューティングゲームアプリの作成 II (タイマー処理の組み込み)
14	緯度経度センサーを使ったアプリの製作 I
15	緯度経度センサーを使ったアプリの製作 II
16	まとめ

【履修上の注意事項】

APP InventorによるAndroid用のシステム開発です。

【評価方法】

出席、授業態度、開発したシステムの提出。

【テキスト】

APP InventorによるAndroidアプリケーション開発環境のバージョン・アップデートが激しいため、教科書を用いずにプリント(各自、電子掲示板よりダウンロード)で行います。また、それに伴い、講義内容に変更のある場合があります。

【参考文献】

Android関連書籍。関連Webページ。

ベンチャー経営論Ⅱ

担当教員 大城 朝子

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

ベンチャービジネスについて理解するとともに、起業家精神や起業に関する実際を習得することを目標とする。

【授業の展開計画】

ベンチャー企業経営についての基本的な知識を修得し、ビジネスモデルを構築できる能力を身につけることを目標とし、実際に事業計画書を作成する。

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	ベンチャー企業経営の概要
3	起業についての予備知識とアントレプレナーシップ
4	起業についての基礎知識
5	ベンチャー企業の起業に関する事例
6	事業計画書（ビジネスプラン）の意義
7	事業計画書（ビジネスプラン）の事例紹介
8	事業計画書（ビジネスプラン）の作り方1
9	事業計画書（ビジネスプラン）の作り方2
10	事業計画書（ビジネスプラン）の作り方3
11	ビジネスプランの作成1
12	ビジネスプランの作成2
13	ビジネスプランの作成3
14	ビジネスプランの発表1
15	ビジネスプランの発表2
16	まとめ

【履修上の注意事項】

後半はグループ学習が中心となるため、原則として欠席・遅刻を厳禁とする。

【評価方法】

出席状況（授業中にだされた課題についての回答も含む）、発表（プレゼンテーション）、受講態度、試験結果などにより総合的に評価する。

【テキスト】

特に指定しない。講義の際に資料を適宜配布する。

【参考文献】

必要に応じ、講義中に紹介する。

簿記演習 I

担当教員 木村 眞実

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本授業では、商業簿記 I で学習した内容を復習し、日商簿記検定試験3級合格を目指します。

【授業の展開計画】

間違えやすい仕訳、試算表の出題パターン、精算表の作成方法について復習をし、検定試験レベルの問題に取り組みます。

週	授 業 の 内 容
1	現金・当座預金・小口現金の復習
2	手形の復習・その他期中取引の復習
3	試算表の作成 (I)
4	試算表の作成 (II)
5	決算の手続き (I)～(III)
6	決算の手続き (IV)～(VI)
7	伝票式会計
8	第1問対策～為替手形の仕訳問題
9	第1問対策～未経過項目の仕訳問題
10	第3問対策～試算表の問題
11	第3問対策～試算表の推定問題
12	第3問対策～伝票式会計の推定問題
13	第5問対策～精算表の問題
14	第5問対策～精算表の推定問題
15	自主学習の方法について～答練問題の配付等
16	

【履修上の注意事項】

講義計画：受講生の理解度を見ながら、講義の内容を立てていきますので、多少、授業計画から変更する可能性があることをご了承ください。持ち物：テキスト・トレーニング（無いと授業が楽しくありません）※本授業の履修を決めた方は、第1回の授業に間に合うように、テキスト・トレーニングを早く入手して下さい。その他：合格のためには、授業の他に、自主学習が必要です。希望者には、自主学習のための答練問題を配付しますので、一緒に合格を目指しましょう！

【評価方法】

授業の参加姿勢50%、定期試験50%

【テキスト】

- ・TAC簿記検定講座『合格テキスト 日商簿記3級 ※最新版』TAC出版、2,100円
- ・TAC簿記検定講座『合格トレーニング 日商簿記3級 ※最新版』TAC出版、1,575円

【参考文献】

- ・TAC簿記検定講座『これだけ仕訳マスター 日商簿記3級 第3版』TAC出版、840円
- ・TAC簿記検定講座『日商簿記3級 網羅型完全予想問題集』TAC出版、840円

簿記演習Ⅱ

担当教員 鶴池 幸雄

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

商業簿記Ⅱ、工業簿記、原価計算の講義で学修した簿記の知識をより実践的な形での理解を目指します。具体的には、日本商工会議所簿記検定試験2級と同等の理解と実践力を身につけることを目標とします。また、本講義にて身につけた応用力等により、検定受検を推奨します。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス等
2	伝票会計
3	帳簿組織Ⅰ
4	帳簿組織Ⅱ
5	本支店会計と財務諸表
6	工業簿記の基礎
7	個別原価計算の応用Ⅰ
8	個別原価計算の応用Ⅱ
9	総合原価計算の応用
10	標準原価計算の応用
11	直接原価計算とC・V・P分析
12	総合テストⅠ
13	総合テストⅡ
14	総合テストⅢ
15	総合テストⅣ
16	期末試験

【履修上の注意事項】

商業簿記Ⅰ、Ⅱ、工業簿記Ⅰは履修済みであること。
会計学Ⅰ、Ⅱも受講していることが望ましい。

【評価方法】

講義への出席、小テストを最低条件とし、総合テストの成績によって評価します。

【テキスト】

講義開始時に指示する

【参考文献】

マーケティング英語

担当教員 カレン ルパードス

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

The purpose of this class is to provide students with an opportunity to confront and use English as they explore aspects of marketing. It is assumed that students have already taken a course (taught in Japanese) in marketing theory, though that is not a requirement for enrollment. NOTE: knowledge and skill in English is desirable but not required; creative teamwork is essential.

【授業の展開計画】

TENTATIVE SCHEDULE...to be adjusted according to the students and their progress and interests.
 1-2 Introduction of semester plans and procedures; getting acquainted; “job-contracting”.
 3-9 As planned, each class session will be “self-contained”. Materials used in class will be those provided by the teacher or by the students and will generally be in English. “Lectures” will be interactive; students will participate as individuals and as members of variable teams. Focus is on recognition of principles of marketing and creative application of those principles. Some class sessions will involve team-competitive on-campus search during the class period.
 10 Library research (class will probably meet in the library for this session)
 11-14 Workshops, presentations, and other student-developed activities related to marketing.
 15 Class- and self-evaluation. (Required for receiving a passing grade.)

【履修上の注意事項】

Active participation by the students is expected; in-class behavior should be supportive, not disruptive. A maximum of five absences is tolerated, but all absences must be “made up” by negotiation requiring student performance if the student wishes to pass or obtain his/her contracted grade. Grades are determined by the student according to advance contract and subsequent evidence of adherence to the terms of their contract.

【評価方法】

Self- and peer-assessment are fundamental to this course. Students choose the grade they wish to “earn” and receive it if they fulfill their “contract” and if they can convincingly support their claim of eligibility for that grade. (Students are NOT graded on their skill or competence in English.)

【テキスト】

No specific text required. Materials prepared by the students and/or instructor will be utilized. Students should become familiar with the world they live in--it's the best textbook available!

【参考文献】

Philip Kotler & Gary Armstrong. 1991. Principles of Marketing (5th edit). Englewood Cliffs: Prentice-Hall.

マーケティング演習

担当教員 小原 満春

対象学年 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

【授業のねらい】

本講義では、マーケティングの基礎的な諸理論を踏まえた上で、企業におけるマーケティング戦略の事例を通して効果的なマーケティング戦略の考察を行う学習をします。プロジェクトにおいて、学生自身で企業におけるマーケティング戦略の分析を行い、その問題点を指摘し、効果的なマーケティング戦略について提案するプロジェクトの発表を行ってまいります。マーケティングの基礎を踏まえた上で、自ら提案したマーケティング戦略のプロジェクト発表を通して、マーケティングの諸活動についてより深く具体的に理解することを目的とします。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	マーケティング戦略事例・・・1
3	マーケティング戦略事例・・・2
4	調査および発表方法、プロジェクトの設定
5	プロジェクトの発表・討論・・・1
6	プロジェクトの発表・討論・・・2
7	プロジェクトの発表・討論・・・3
8	プロジェクトの発表・討論・・・4
9	プロジェクトの発表・討論・・・5
10	プロジェクトの発表・討論・・・6
11	プロジェクトの発表・討論・・・7
12	プロジェクトの発表・討論・・・8
13	プロジェクトの発表・討論・・・9
14	プロジェクトの発表・討論・・・10
15	レポートのまとめ
16	レポート提出

【履修上の注意事項】

(1) 本講義は後期のマーケティング総論と連続したプログラムを組んでいます。理論を学び演習で実習プロジェクトを行うので前期の「マーケティング総論」とセットで登録する事が望ましい。

(2) 授業に出席を重視します。積極的に学ぶ姿勢が必要です。進んで発言し議論に参加すること。

(3) 授業中の携帯電話、私語、飲食など他の学生に迷惑になる行為は厳に慎むこと。場合によっては退出させます。

【評価方法】

発表・レポート50% 出席・議論への参加・発言50% 他 総合的に判断します。

【テキスト】

必要に応じて講義中に紹介します。

【参考文献】

恩蔵直人監修(1999)『コトラーのマーケティング入門 第4版』ピアソンエデュケーション

恩蔵直人監修(2008)『コトラー&ケラーのマーケティングマネジメント』ピアソンエデュケーション

石井淳蔵他(2004)『ゼミナールマーケティング入門』日本経済新聞出版社

マーケティング情報処理 I

担当教員 原田 真知子

対象学年 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

情報の時代が到来し、マーケティング領域においてもデータを読み判断する能力が問われている。この授業は、膨大なデータから価値ある情報を読み取り、論理的思考に基づく意思決定能力を修得することを最終目標とし、データ分析の理論的基礎と分析技法について分析ソフトを操作しながら実践的に学ぶ。データの扱い方から分析結果の報告までの計量的分析の各段階をI、IIの30回に分けて説明する。Iはデモグラフィックスの手法、調査データの種類の分析準備、データの要約と探索的分析などの項目が理解でき、分析が行えるレベルを目指す。

【授業の展開計画】

はじめに、デモグラフィックスと呼ばれるビジネス人口統計学のなかから3つの分析手法を選び、マーケット分析実習を行う。表計算ソフトと集計データの活用法、テキスト・データの扱い方、事象の測定法などのデータ分析の基本を学ぶ。次に、統計解析ソフト「SPSS」を動かしながらアンケート調査データの種類の加工などの方法を学ぶ。さらに、データ分析の理論的基礎となる記述統計学から推定・検定の考え方までを、ビジュアル教材を用いてわかりやすく説明する。講義はすべてデータ分析実習をともなう。

- 1 オリエンテーション（概要と授業の受け方）、マーケティング・データ分析の適用例
- 2 Excelで学ぶデモグラフィックス(Demographics) 1： 出店計画にいかす商圏の設定と分析
- 3 デモグラフィックス 2： 製品カテゴリー普及過程の観察
- 4 SPSSによる調査データ分析 1： データの種類と尺度
- 5 調査データ分析 2： データの入力と加工
- 6 調査データ分析 3： データの記述（代表値とばらつき）
- 7 調査データ分析 4： 度数分布表とヒストグラム
- 8 調査データ分析 5： 推定・検定の考え方（1）
- 9 調査データ分析 6： 推定・検定の考え方（2）
- 10 事例紹介： 趣向の差異とブランドのパッケージ、ほか
- 11 調査データ分析 7： クロス集計表と分析
- 12 調査データ分析 8： 相関から回帰へ（1）
- 13 調査データ分析 9： 相関から回帰へ（2）
- 14 事例紹介：顧客満足度分析、製品使用頻度の差異
- 15 まとめと今後の学習指針（マーケティング情報処理IIへの展望）
- 16 レポート提出： データ分析レポートの提出と評価

【履修上の注意事項】

1) 第1回目の授業で関心や学習歴などを調査し受講生を決定するで、〈必ず出席する〉こと。2) 分析ソフトを用いた統計解析という専門性を修得するには、学習の積み重ねが必要である。できるだけ欠席はしないこと。遅刻は厳禁とする。3) Excelで集計表を作成した経験があることが望ましい。高度な数学知識がなくともよい。意欲と関心を持って最後まで取り組める人を歓迎する。

【評価方法】

授業への参加姿勢（30%）、データ分析課題の提出と内容評価（70%）とを勘案し、総合的に評価する。講義回数の3分の1以上を欠席した場合は、不合格とするので注意すること。

【テキスト】

特に指定はない。プリントを配布する。また、実習用データと解答・解説、補足資料を講義用ウェブサイト随時更新していくので、その都度各自でダウンロードし使用する。

【参考文献】

Groebner, D. F. et al. "Business Statistics" Prentice Hall. Malhotra, N. K. "Marketing Research: An Applied Orientation" Prentice Hall. 田淵正則『SPSSで学ぶ調査形データ解析』東京図書。

マーケティング情報処理 II

担当教員 原田 真知子

対象学年 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

この授業は、膨大なデータから価値ある情報を読み取り、論理的思考に基づく意思決定能力を修得することを最終目標とし、マーケットや消費者行動の分析法について分析ソフトを操作しながら実践的に学ぶ。調査データの計量的分析から解釈、報告書の作成までのプロセスを集中的に学ぶ。マーケティング情報処理Iの学習で積み上げた統計的知識や分析テクニックを、事例ごとに紹介するより高度なデータ分析へと発展させる。〈知識・パターン・法則性〉に基づく意思決定のダイナミックな面白さを感じてほしい。

【授業の展開計画】

はじめに、統計解析ソフト「SPSS」を動かしながら、仮説検定（標本と母集団、推測と検定）の考え方と分析手順を学ぶ。これは、MJIで学んだSPSSの基本操作や分析のためのデータ加工法の復習を兼ねている。次に、マーケティング計画の際によく用いられる量的データの分析法（多変量解析諸技法）について、ケース・スタディを通して学ぶ。最後に、グループによるリサーチ・プロジェクトの発表会を行い、分析からプレゼンテーションまでの手順を学ぶ。

＊ ＊卒論などのデータ分析にいかせるよう、分析計画と手法の選択、解釈上陥りやすい誤りなどについても説明する。

1 授業の概要と受け方、マーケティング・データ分析の事例紹介（車、化粧品、ドラッグストアなど）

2 データ分析のための基礎知識 1： 仮説検定の考え方と手順（1）

3 データ分析のための基礎知識 2： 仮説検定の考え方と手順（2）、データ解析戦略とは

4 分析事例 1： 分散分析による販売促進効果の測定 —基本的考え方—

5 分析事例 1： 分散分析による販売促進効果の測定 —比較実験と交互作用—

6 分析事例 2： 重回帰分析による市場性の予測 —基本的考え方—

7 分析事例 2： 重回帰分析による市場性の予測 —売上高変動の説明と予測—

8 分析事例 3： ロジスティック回帰分析による市場反応の測定 —ブランド選択モデルの紹介—

9 分析事例 4： クラスタ分析によるベネフィット・セグメンテーション —基本的考え方—

10 分析事例 4： クラスタ分析によるベネフィット・セグメンテーション —消費者のグループ分け—

11 分析事例 5： 因子分析によるブランドの知覚マップ —基本的考え方—

12 分析事例 5： 因子分析によるブランドの知覚マップ —知覚マップ作成—

13 データ分析のまとめ、報告書とプレゼンテーションの重要性とガイドライン

14 リサーチ・プロジェクトの準備 1

15 リサーチ・プロジェクトの準備 2

16 リサーチ・プロジェクトの発表会（プレゼンテーションと評価）

【履修上の注意事項】

1) 第1回目の授業で関心や学習歴などを調査し受講生を決定するで、〈必ず出席する〉こと。2) 分析ソフトを用いた統計解析という専門性を修得するには、学習の積み重ねが必要である。できるだけ欠席はしないこと。遅刻は厳禁とする。3) Excelで集計表を作成した経験があることが望ましい。高度な数学知識がなくともよい。意欲と関心を持って最後まで取り組める人を歓迎する。

【評価方法】

授業への参加姿勢（30%）、データ分析実習の提出（30%）と発表（40%）とを勘案し、総合的に評価する。講義回数の3分の1以上を欠席した場合は、不合格とするので注意すること。

【テキスト】

特に指定はない。プリントを配布する。また、実習用データと解答・解説、補足資料を講義用ウェブサイト随時更新していくので、その都度各自でダウンロードし使用する。

【参考文献】

Malhotra, Naresh K., "Marketing Research, An Applied Orientation," Prentice Hall. 田淵正則『SPSSで学ぶ調査系データ解析』東京図書. 朝野照彦『入門 多変量解析の実際』講談社

マーケティング総論

担当教員 野原 寿加子

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション
2	女性の理を理解するものがビジネスを制する
3	女性とマーケティング
4	男女の違い①
5	男女の違い②
6	男女の違い③
7	男女の違い④
8	男女の違い⑤
9	女性の買い物を買える五つの世界的トレンド①
10	女性の買い物を買える五つの世界的トレンド②
11	女性の買い物を買える五つの世界的トレンド③
12	女性の買い物を買える五つの世界的トレンド④
13	女性の買い物を買える五つの世界的トレンド⑤
14	女性の心をつかむ商品をどう生み出すか
15	女性にアピールするマーケティング
16	試験

【履修上の注意事項】

積極的に学ぶ姿勢を重視する。

【評価方法】

試験、課題、出席および授業態度などを総合的に評価する。

【テキスト】

「女性のこころをつかむマーケティング」 著者：ブリジット・ブレナン 発行社：海と月社

【参考文献】

必要に応じて講義中に紹介。

マーケティング総論

担当教員 小原 満春

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

ビジネス活動の基本は、「売りたい商品をより多く売って、利益をたくさん上げる」と言えます。そのため、商品売るにはどうするかを考えなければいけません。昔のように「良い物を作ればそれなりに売れる」時代ではない現在、いろいろな考え方や方法により「売れる仕組みをつくる」ことが非常に重要です。すなわち、企業にとって売れる仕組みづくりが「マーケティング」だと言えます。本講義では、マーケティング研究の基礎的理論を中心に、ケーススタディを交えた講義を行い、マーケティングの基礎的知識および考え方を習得することを目的とします。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	マーケティングとは何か
3	マーケティング・プロセス
4	マーケティング環境・・・1
5	マーケティング環境・・・2
6	マーケティングと消費者行動・・・1
7	マーケティングと消費者行動・・・2
8	マーケティング戦略・・・1
9	マーケティング戦略・・・2
10	製品戦略
11	製品ライフサイクル戦略
12	価格
13	マーケティング・コミュニケーション
14	広告
15	まとめ
16	学期末試験

【履修上の注意事項】

(1) 本講義は後期のマーケティング演習と連続したプログラムを組んでいます。理論を学び演習で実習プロジェクトを行うので後期の「マーケティング演習」とセットで登録する事が望ましい。

(2) 授業に出席を重視します。積極的に学ぶ姿勢が必要になります。

(3) 授業中の携帯電話、私語、飲食など他の学生に迷惑になる行為は厳に慎むこと。場合によっては退出させます。

【評価方法】

期末考査 60% 課題提出 30% 出席 10% を踏まえた上で総合的に評価します。

【テキスト】

恩蔵直人監修 (1999) 『コトラーのマーケティング入門 第4版』ピアソンエデュケーション

【参考文献】

石井淳蔵他 (2004) 『ゼミナールマーケティング入門』日本経済新聞出版社

恩蔵直人監修 (2008) 『コトラー&ケラーのマーケティングマネジメント 基本編』ピアソンエデュケーション

マーケティング特別講義

担当教員 東 徹

対象学年 2年

単位区分 選択

準備事項

備考 夏期集中講義（世話役：清村英之）

開講時期 その他

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

皆さんは、旅行の目的地をどのようにして決めますか？パッケージ・ツアーを選ぶ決め手は？宿選びにこだわりはありますか？食事やお土産を買う時「地域らしさ」をどのくらい意識しますか？あるいはまた、「人々が農村観光に求めるものは？」「B級ご当地グルメは地域を元気にできるか？」「鉄道ビジネスが儲かるには？」「地方のテーマパークはなぜ苦戦するのか？」考えたことはありますか？この授業では、マーケティング（売れる仕組み・買ってもらえる仕掛けづくり）の考え方・進め方を応用し、観光・地域振興に向けた「集客と満足の仕組みづくり」について皆さんと一緒に考えてみたいと思います。

【授業の展開計画】

- 1回：観光・地域振興に求められるマーケティングの考え方
- 2回：観光は21世紀の基幹産業？・・・高まる観光への期待
- 3回：大衆化・大量化・産業化した現代の観光・・・「マス・ツーリズム」の光と影
- 4回：あらゆるものが観光資源？・・・多様化する観光と地域資源の商品化
 - ◆インバウンド（訪日外国人観光）誘致について考えてみよう
- 5回：人々が観光に出かける動機はなんだろう？・・・観光行動のメカニズム
- 6回：観光客がおかれる心理状態・・・個人型と団体型、上り型と下り型はどう違う？
- 7回：観光客のニーズ・行動はどう変わったか
 - ◆なぜ「宿選び」にこだわるのか？考えてみよう
- 8回：「観光業」って何？・・・とらえにくい「観光産業」という世界
- 9回：「旅行商品」って何？・・・旅行業の役割について考えてみよう
- 10回：季節変動の激しい観光需要と観光供給・・・観光市場の特性について考えてみよう
 - ◆LCC（格安航空会社）のビジネス・モデルについて考えてみよう
- 11回：サービスの特性は利点か欠点か？・・・サービスの商品特性と戦略
- 12回：サービスの「良さ」はどう決まる？・・・サービス・クオリティ
- 13回：顧客満足の決め手は従業員満足！・・・サービス・プロフィット・チェーン
- 14回：地域ブランド構築と観光の役割について考えてみよう
- 15回：観光と地域振興の考え方はどう変わってきたのか

【履修上の注意事項】

観光やサービスに関心のある皆さん、地域振興に熱い思いを抱く皆さん、意欲の高い皆さんの参加を期待しています。一緒に「学び、知ることを楽しむ授業」にしていきましょう。

【評価方法】

授業内で行う小テスト、課題等をもとに評価します。

【テキスト】

【参考文献】

- 前田 勇編著『現代観光総論〔改訂新版〕』学文社
 長谷政弘編著『観光学辞典』同文館出版
 嶋 正・東 徹編著『現代マーケティングの基礎知識』創成社

マーケティング入門 I

担当教員 宮森 正樹

対象学年 1年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

マーケティングコースの入門として専門科目に始めて触れるクラスである。テキストを中心にパワーポイントを用いて分かりやすくそして面白くマーケティングを解説していく。まずはマーケティングのコンセプトにより、これまでのビジネスに対する考え方を大きく変えて欲しい。授業では、沖縄県の企業の事例を用いて説明し、実務家を招聘して、授業で学んだマーケティング理論がどう応用されて実践されているかを知る機会も作る。

【授業の展開計画】

- 1～2週：オリエンテーション、マーケティングの定義
- 3～4週：マーケティングの現代的意義
- 5～6週：マーケティング概念とその拡張
- 7～8週：マーケティング理念
- 9～10週：マーケティングの戦略思考
- 11～12週：マーケティング戦略の策定
- 13～15週：製品ライフサイクル

【履修上の注意事項】

- ・おしゃべり、居眠りは禁止（当たり前）
- ・積極的に授業に参加（質問に答える、質問をする）
- ・事前に予習すること
- ・マーケティングの定義を覚える（暗記）

【評価方法】

- ・期末試験
- ・豆テスト
- ・レポート（ビデオ・社会人講師）
- ・出席および授業への参加度

【テキスト】

授業で指定する

【参考文献】

現代マーケティングの構図

マーケティング入門 I

担当教員 河田 賢一

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

企業が存続していくためには、売り上げを上げることと利益を確保することが求められます。売り上げを上げるためにはお客様を引きつけるような商品やサービスが必要となり、それをお客様に知ってもらわなければなりません。お客様を引きつけるような商品やサービスを考えたり、それをお客様に知ってもらうことがマーケティングです。今やマーケティングは民間企業だけでなく、国・地方公共団体や非営利組織にも必要となっています。そこで当講義ではマーケティングの基本的な知識を学んでいきます。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	マーケティング総説①
3	マーケティング総説②
4	マーケティング総説③
5	マーケティング総説④
6	マーケティング総説⑤
7	マーケティング総説⑥
8	マーケティングリサーチ①
9	マーケティングリサーチ②
10	マーケティングリサーチ③
11	製品戦略①
12	製品戦略②
13	製品戦略③
14	製品戦略④
15	講義のまとめ
16	期末試験

【履修上の注意事項】

当講義は必修科目のため出席を重視します。必修科目であると共に、2年次からのマーケティングコースにおける全ての科目の基礎となるため、受講態度の悪い学生は教室から退去してもらいます。講義開始と共に出席カードを配布します。その時点で教室にいない場合は欠席となります。講義時間中に限らず、開始前・終了後に教室の机に座った場合は減点となります。トイレに友人と一緒にに行く必要はありません。長時間教室に戻ってこない場合には欠席扱いとなります。講義時間中にタバコを吸いに行った場合には、即座に単位『不可』となります。

【評価方法】

期末試験（55%）、出席点・受講態度（45%）

【テキスト】

西田安慶・城田吉孝編（2011）『マーケティング戦略論』学文社

【参考文献】

フィリップ・コトラー，ケビン・レーン・ケラー（恩蔵直人 [監修]・月谷真紀 [訳]）（2008）『コトラー&ケラーのマーケティング・マネジメント（第12版）』ピアソン・エデュケーション

マーケティング入門 I

担当教員 野原 寿加子

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

マーケティングに関する基礎的な知識を習得する

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション
2	マーケティングとは何か？①
3	マーケティングとは何か？②
4	課題&ディスカッション
5	STP① セグメンテーション (S) とターゲティング (T)
6	STP② ポジショニング (P)
7	課題&ディスカッション
8	4つのP① Product (製品)
9	4つのP② Price (価格)
10	4つのP③ Place (流通チャネル)
11	4つのP④ Promotion (販売促進)
12	具体例で考えるSTPと4つのP
13	課題&ディスカッション
14	マーケティングに関するDVD
15	これまでの講義のまとめ
16	試験

【履修上の注意事項】

積極的に学ぶ姿勢を重視する。

【評価方法】

試験、課題、出席および授業態度などを総合的に評価する。

【テキスト】

「プレステップ」マーケティング 著者：丸山正博 発行所：弘文堂

【参考文献】

必要に応じて講義中に紹介。

マーケティング入門Ⅱ

担当教員 宮森 正樹

対象学年 1年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

マーケティングコースの入門として専門科目に始めて触れるクラスである。テキストを中心にパワーポイントを用いて分かりやすくそして面白くマーケティングを解説していく。まずはマーケティングのコンセプトにより、これまでのビジネスに対する考え方を大きく変えて欲しい。授業では、沖縄県の企業の事例を用いて説明し、実務家を招聘して、授業で学んだマーケティング理論がどう応用されて実践されているかを知る機会も作る。後期はマーケティング入門Ⅰを受けて、継続してその内容を深めていく。

【授業の展開計画】

- 1～2週：マーケティング環境
- 3～4週：マーケティング環境のインパクトと要素
- 5～6週：消費者行動（モデルの解説）
- 7～8週：消費者行動（具体的事例）
- 9～10週：マーケティング情報
- 11～12週：マーケティング・リサーチ
- 13～15週：データ分析

【履修上の注意事項】

- ・おしゃべり、居眠り禁止
- ・予習
- ・出席重視
- ・授業への積極的参加

【評価方法】

- ・期末試験
- ・豆テスト
- ・レポート（ビデオ、社会人講師）
- ・出席および授業への参加度

【テキスト】

授業で指定する

【参考文献】

現代マーケティングの構図

マーケティング入門Ⅱ

担当教員 河田 賢一

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

企業が存続していくためには、売り上げを上げることと利益を確保することが求められます。売り上げを上げるためにはお客様を引きつけるような商品やサービスが必要となり、それをお客様に知ってもらわなければなりません。お客様を引きつけるような商品やサービスを考えたり、それをお客様に知ってもらうことがマーケティングです。今やマーケティングは民間企業だけでなく、国・地方公共団体や非営利組織にも必要となっています。そこで当講義ではマーケティングの基本的な知識を学んでいきます。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	製品戦略（ブランド構築活動）
3	価格戦略①
4	価格戦略②
5	価格戦略③
6	プロモーション戦略①
7	プロモーション戦略②
8	プロモーション戦略③
9	流通チャネル戦略①
10	流通チャネル戦略②
11	流通チャネル戦略③
12	流通チャネル戦略④
13	関係性マーケティング①
14	関係性マーケティング②
15	講義のまとめ
16	期末試験

【履修上の注意事項】

当講義は必修科目のため出席を重視します。必修科目であると共に、2年次からのマーケティングコースにおける全ての科目の基礎となるため、受講態度の悪い学生は教室から退去してもらいます。講義開始と共に出席カードを配布します。その時点で教室にいない場合は欠席となります。講義時間中に限らず、開始前・終了後に教室の机に座った場合は減点となります。トイレに友人と一緒にいく必要はありません。長時間教室に戻ってこない場合には欠席扱いとなります。講義時間中にタバコを吸いに行つた場合には、即座に単位『不可』となります。

【評価方法】

期末試験（55%）、出席点・受講態度（45%）

【テキスト】

西田安慶・城田吉孝編（2011）『マーケティング戦略論』学文社

【参考文献】

フィリップ・コトラー，ケビン・レーン・ケラー（恩蔵直人 [監修]・月谷真紀 [訳]）（2008）『コトラー&ケラーのマーケティング・マネジメント（第12版）』ピアソン・エデュケーション

マーケティング入門Ⅱ

担当教員 野原 寿加子

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

マーケティングに関する基礎的な知識を習得する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション
2	マーケティング基礎知識に関する復習
3	マーケティング環境①
4	マーケティング環境②
5	マーケティングリサーチ
6	消費者市場と消費者の購買行動①
7	消費者市場と消費者の購買行動②
8	課題&ディスカッション
9	インターネットでの売り方の特徴
10	課題&ディスカッション
11	サービス業のマーケティング
12	マーケティングに関するDVD
13	マーケティングに関するDVD
14	ソーシャル・マーケティング
15	これまでの抗議のまとめ
16	試験

【履修上の注意事項】

積極的に学ぶ姿勢を重視する。

【評価方法】

試験、課題、出席および授業態度などを総合的に評価する。

【テキスト】

「プレステップ」マーケティング 著者：丸山正博 発行所：弘文堂

【参考文献】

必要に応じて講義中に紹介。

民法

担当教員 福里 芝人

対象学年 3年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

私たちの日常生活について規律する民法について学習し、契約社会の中で生きていくための基礎知識を習得する。
民法の中でも、特に、大学生の皆さんに関わりがあるようなテーマを設定し、六法の条文や法律用語に少しでも慣れ、今後の法律関連の学習に興味をもっていけるように学んでいく。

【授業の展開計画】

- 第1週：オリエンテーション（シラバスの説明、民法とは？六法とは？）
- 第2週：契約の基礎知識（契約と単なる約束は何が違うの？ 契約はどうやって成立するの？）
- 第3週：未成年者及び成年後見制度（判断能力の不十分な者を、民法はどうやって保護しているか？）
- 第4週：意思表示と消費者契約（ついうっかり契約した、ダメされて契約した、そのとき契約はどうなるの？）
- 第5週：不動産・動産の売買（登記の移転、引渡）
- 第6週：契約がその内容通りに実行されない場合どうすればよいのか？（債務不履行・強制履行）
- 第7週：契約がその内容通りに実行されない場合に備えて（保証人・担保物権）
- 第8週：アパートを借りる（賃貸借契約）
- 第9週：交通事故を起こした場合（不法行為と損害賠償請求）
- 第10週：一定の時間の経過によって、権利や義務が消滅する！？（時効制度）
- 第11週：結婚して夫婦となる
- 第12週：離婚と慰謝料請求
- 第13週：親子の法律関係
- 第14週：親の財産を相続する
- 第15週：遺言を残す
- 第16週：全体的なまとめ、試験。

【履修上の注意事項】

初回の講義がとても大切になるので、受講希望者は、初回の講義から参加するように。また、登録期間中であっても、講義は進行していくので、指定された教科書や六法は早めに購入して授業に参加すること（講義成立定員に満たない場合には別途指示する）。
私語厳禁。

【評価方法】

学期末試験結果を重視。それに加えて、受講態度、レポート提出状況を加味する場合がある。

【テキスト】

六法（平成23年版）は全員必携。教科書については、第1週の講義の時間に紹介する。
その他、六法・教科書の詳細については、最初の講義で説明する。

【参考文献】

内田貴『民法Ⅰ～Ⅳ』東京大学出版会）
遠藤浩・川井健 他編『民法1～9』（有斐閣双書） ※その他、随時紹介する。

流通政策論 I

担当教員 河田 賢一

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

様々な小売業態の誕生・外資小売業の日本参入・消費者の変化・日本経済の変化等により激しくなった小売業界の競争に対応するために企業の流通チャネル戦略（政策）が変化しています。本講義はこのような要因によるメーカー・卸売業・小売業の流通チャネル戦略（政策）がどのように変化してきたかを学んでいきます。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	流通チャネル戦略①
3	流通チャネル戦略②
4	流通チャネル戦略③
5	進化する日本の流通システム①
6	進化する日本の流通システム②
7	進化する日本の流通システム③
8	日本型取引制度の成立と進化①
9	日本型取引制度の成立と進化②
10	日本型取引制度の成立と進化③
11	日本型小売流通システムの特性と軌道修正①
12	日本型小売流通システムの特性と軌道修正②
13	日本型小売流通システムの特性と軌道修正③
14	日本型小売流通システムの特性と軌道修正④
15	講義のまとめ
16	期末試験

【履修上の注意事項】

講義開始時刻とともに出席カードを配布します。その時点で教室にいない場合は欠席となります。講義時間中に限らず、開始前・終了後に教室の机に座った場合には減点となります。トイレに友人と一緒にに行く必要はありません。長時間教室に戻ってこない場合には欠席扱いとなります。講義時間中にタバコを吸いに行った場合には、即座に単位『不可』となります。

【評価方法】

期末試験（70%）、出席点・受講態度（30%）

【テキスト】

崔相鐵・石井淳蔵編（2009）『シリーズ流通体系2 流通チャネルの再編』中央経済社

【参考文献】

根本重之（2004）『新取引制度の構築 一流通と営業の革新』白桃書房

流通政策論Ⅱ

担当教員 河田 賢一

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

様々小売業態の誕生・外資小売業の日本参入・消費者の変化・日本経済の変化等により激しくなった小売業界の競争に対応するために企業の流通チャネル戦略（政策）が変化してきています。本講義はこのような要因によるメーカー・卸売業・小売業の流通チャネル戦略（政策）がどのように変化してきたかを学んでいきます。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	メーカー系列販売会社の生成と展開①
3	メーカー系列販売会社の生成と展開②
4	酒類業界の流通再編と取引制度改革①
5	酒類業界の流通再編と取引制度改革②
6	酒類業界の流通再編と取引制度改革③
7	家電業界における流通チャネルの再編①
8	家電業界における流通チャネルの再編②
9	家電業界における流通チャネルの再編③
10	専売店制の競争優位①
11	専売店制の競争優位②
12	専売店制の競争優位③
13	日用雑貨業界のチャネル再編と取引制度改革①
14	日用雑貨業界のチャネル再編と取引制度改革①
15	講義のまとめ
16	期末試験

【履修上の注意事項】

講義開始時刻とともに出席カードを配布します。その時点で教室にいない場合は欠席となります。

講義時間中に限らず、開始前・終了後に教室の机に座っていた場合には減点となります。トイレに友人と一緒に行く必要はありません。長時間教室に戻ってこない場合には欠席扱いとなります。講義時間中にタバコを吸いに行った場合には、即座に単位『不可』となります。

【評価方法】

期末試験（70%）、出席点・受講態度（30%）

【テキスト】

崔相鐵・石井淳蔵編（2009）『シリーズ流通体系2 流通チャネルの再編』中央経済社

【参考文献】

根本重之（2004）『新取引制度の構築 一流通と営業の革新』白桃書房

流通総論

担当教員 河田 賢一

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

学生の皆さんにとって最も身近である小売業を中心とした流通の基本知識を学んでいきます。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	流通の機能①
3	流通の機能②
4	流通の機能③
5	流通機構①
6	流通機構②
7	流通機構③
8	革新的小売業①
9	革新的小売業②
10	革新的小売業③
11	革新的小売業④
12	商業集積①
13	商業集積②
14	商業集積③
15	講義のまとめ
16	期末試験

【履修上の注意事項】

講義開始とともに出席カードを配布します。その時点で教室にいない場合は欠席となります。

講義時間中に限らず、開始前・終了後に教室の机に座った場合は減点となります。トイレに友人と一緒にいく必要はありません。長時間教室に戻ってこない場合は欠席扱いとなります。講義時間中にタバコを吸いに行った場合は即座に単位『不可』となります。

【評価方法】

期末試験（70%）、出席点および受講態度（30%）

【テキスト】

中田信哉・橋本雅隆編（2006）『基本流通論』実教出版

【参考文献】

労働経済学

担当教員 喜屋武 臣市

対象学年 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

企業は財とサービスを生産し、利益を得るために、資本市場から資本を調達し、労働市場から労働力を確保する。労働需要が派生需要とよばれるゆえんであり、その動きは雇用の量と質を左右し、人々の仕事と暮らしのありようを規定する。雇用が二極化する中で、経済大国日本では過去のものであったはずの格差、不平等、貧困が国民の仕事と暮らしに顕在化している。この講義では、現代労働の特徴・課題を浮き彫りにしつつ、それらの制度的・理論的解釈を試みる。

【授業の展開計画】

- 第1回 現代労働の潮流
- 第2回 “紙上ディベート：職業選択”
- 第3回 人的資本投資としての大学進学
- 第4回 大卒の求人・求職行動
- 第5回 教育投資と労働需給特性
- 第6回 非正規労働の特性
- 第7回 地域間労働移動：沖縄からの県外就労
- 第8回 地域間労働移動：沖縄の米軍基地への就労
- 第9回 “紙上ディベート：転職”
- 第10回 企業間・職業間労働移動：離職・転職と雇用の質
- 第11回 賃金体系と賃金特性
- 第12回 民間労働者と公務員の賃金決定機構
- 第13回 雇用差別
- 第14回 失業：誰が、なぜ失業しているのか
- 第15回 所得格差—貧困を中心に—
- 第16回 総括

【履修上の注意事項】

統計学を履修していることが望ましい。

【評価方法】

講義ごとの所定講義要旨の提出、紙上ディベート参加、宿題、および大学が定める出欠席規定にもとづく。

【テキスト】

特に指定しない。適宜、ハンドアウトを配布する。

【参考文献】

荻谷・本田編『大卒就職の社会学』東大出版会、武田圭太『採用と定着』白桃書房
日本労働政策研究・研修機構「ユースフル労働統計」<http://www.jil.go.jp/kokunai/statistics/kako/>